

T

Insect

1

0

1993
MARCH

0

Beetle

B

Butterfly

U

百万石蝶談会

Plate 1

松井正人：ツマグロヒョウモンとオウラギスジヒョウモンの雑種が羽化 本文8～9ページ



♀



♂



♀



♂



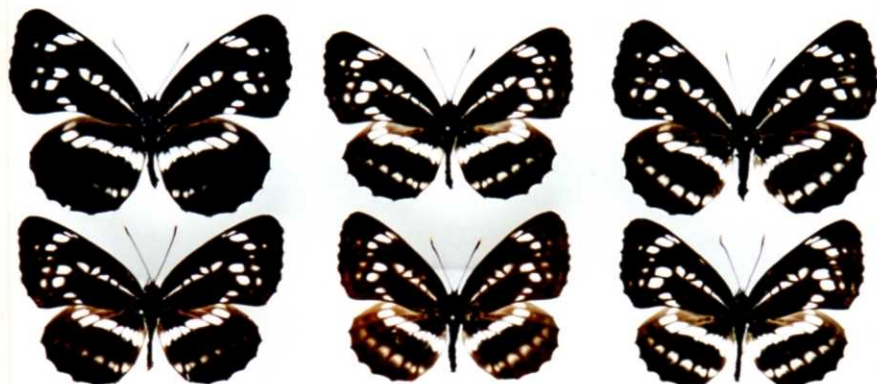
♀裏面



♂裏面

Plate 2

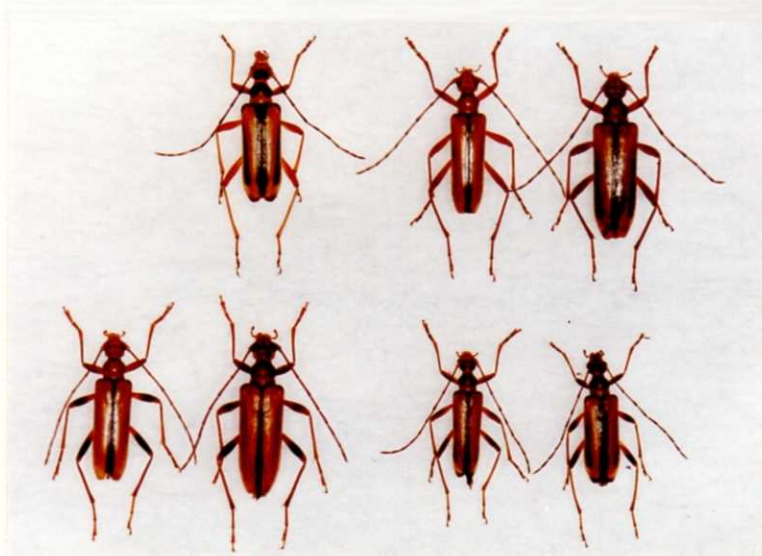
野中 勝：白山のホシミスジの黒化傾向について 本文10ページ



上段左から
1991年7月28日
白峰村釈迦林道
野中 勝 採集
1983年7月24日
尾口村岩間
中西重雄 採集
1983年7月24日
尾口村岩間
中西重雄 採集
下段左から
1983年7月24日
尾口村岩間
中西重雄 採集
1983年7月19日
尾口村岩間
中西重雄 採集
1983年7月24日
尾口村岩間
中西重雄 採集

澤田 博：石川県のカクムネヒメハナカミキリ種群について

本文18～22ページ



上段左から
Pidonia misenia ♀
1983年6月12日 尾口村丸石谷
野中 勝 採集
Pidonia bouvieri ♂
1991年8月14日 尾口村白山楽々新道
野中 勝 採集
Pidonia bouvieri ♀
1991年8月14日 尾口村白山楽々新道
野中 勝 採集
下段左から
Pidonia takechii ♂
1989年7月24日 白峰村釈迦林道
澤田 博 採集
Pidonia takechii ♀
1989年7月31日 白峰村釈迦林道
澤田 博 採集
Pidonia maculithorax ♂
1989年7月8日 白峰村釈迦林道
澤田 博 採集
Pidonia maculithorax ♀
1989年7月8日 白峰村釈迦林道
澤田 博 採集

野中 勝：白峰村釈迦林道で得られた石川県初記録の甲虫3種

本文23ページ



左から
クロオオキハハネカクシ
カラフトマルトゲムシ
ベニバナガタムシ

『翔』発行100号記念に寄せて

嵯峨井淳郎

百万石蝶談会が発足して足掛け13年、会誌「翔」の発行は実に100号を数えることとなった。ひとえに現「翔」編集人・松井正人氏の努力の賜物と言え、且つ編集人を公私共にバックアップした周囲の方々、特に松井夫人の内助の功は筆舌に尽くしがたい。

1993年1月2日、恒例の松井夫妻との新春大宴会の際、「翔」100号の巻頭用の原稿執筆依頼を受けたが、ここ何年来のフィールドでの無活動、無成果、例会への低出席率、等々からとても巻頭原稿は執筆できないと1度は辞退した。しかし元編集人として、けんもほろろの返事ではいささか後ろめたさを禁じえず、ペンを執ることとした。

記念号に寄せる原稿となると、いささか気を張って書かなければならないところだが、「100号の歩み」、「石川蝶学の動向」、「100号から見た石川虫屋の中央への貢献度」、「会員アラカルト」、「発会のエピソード」等と、取り上げようとすれば話はいくらかでもあるが、今回はあえて以下の話をする事とした。

発会当初、『石川県産蝶類新産地発見手引書』（手書きコピー8頁）なるものを松井正人氏が作成し、蝶談会スタート時のメンバーに配布され、これを基に当時石川県の珍種珍蝶（必ずしもそうとは限らない）と言われているものを、1種ずつ潰していこうと意気込んだ。この手引書には21種が挙げられ、調査目標を何処におくか、また記述してはないが食草の調査、採卵の方法・試み等、当時議論沸騰したものであるが、以後10数年の成果は別表1の結果となった。

『発見手引書』による調査目標達成率は71%、大半が「翔」1～50号に、報告が集中していることがわかる。蝶学の後進県として当時肩身の狭い思いをしたことがふと脳裏をかすめる。発表しないことの奥ゆかしさ、内向的と言われ、かつ加賀百万石のありがたさにどっぴりと潰かったあまり、努力をしない譜代的タイプの多い石川県人の県民性に、「カツ」を入れてくれた外様のタイプの諸氏に改めて感謝の意を表したい。

この後『発見手引書』の続編とも言うべき、『石川県の珍蝶』（松井正人、翔、NO.70, 1988）が執筆され、クロシジミ、ヒメシジミ、ミヤマシジミ、ムラサキシジミ、ギンボシヒョウモン、エルタテハ、コヒオドシの7種を挙げ、再調査を促している。（ は『発見手引書』との重複種）ただ1点残念なのは、全会員悲願であった石川県産ヒサマツミドリシジミ探しは今だ結論が出ていない。これは『発見手引書』には、とりあげられてはいないが、隣県等における調査経験を活かし、何度か試行錯誤を繰返したにもかかわらず、今だ結論が出ていない問題種なのである。

最後に、歴代「翔」編集人の松本和馬、野中 勝、井村正行、吉村久貴、松井正人の各氏、ご苦労様でした。更に200号に向けて全会員一丸となって、会の発展・飛躍を期そうではないか。改めて会員諸氏の原稿執筆を強く切望するものである。そして現「翔」編

集人の代弁をするならば、どなたか「編集人をやってみる人はいませんか？」そろそろ新しい編集人に交代する時期に来ており、新風採り入れの潮時に気づいているのは、自他ともに認めているところであろう。

表 1. 『石川県産蝶類新産地発見手引書』による成果

調査目標達成状況を次によって示す

◎：調査目標達成

○：データの集積はあるが、幼生期がはっきりしない

△：数件の記録はあるが、調査不十分

×：記録は皆無で絶滅の可能性がある

種 名	当 時 の 調 査 目 標 ・ コ メ ン ト	特に活躍した人	「翔」掲載NO.
◎ ギフチョウ	医王山地域を除く浅野川以北 吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村	松井正人	17、58、62、66、70、 85
◎ ウスバシロチョウ	浅野川以北～宝達山に至る地域	嵯峨井淳郎	13、65、71、78、83
△ ツマグロキチョウ	橋立海岸、9月下旬	————	94
◎ オオヒカゲ	能登半島各地の古い記録の精査	諸道秀人	19、25、32、39、47
△ エルタヘ	六兵衛茶屋、室堂、六万山、中宮	————	
○ ヒメシジミ	中宮 1977、1979年の2例	————	74
◎ スギタニルシジミ	浅野川、犀川、内川、直海谷、瀬波谷	野中 勝	4、15、21、47、56、77
◎ アサマシジミ	5月中旬、ナンテンハギより幼虫	松井正人	24、26、48、86
△ ムラサキシジミ	記述なし	————	51
◎ ゴマシジミ	7月下旬～8月下旬、白山山麓各地 中ノ川噴泉塔群付近	松井正人	10、51、67、69、74、 80、86
◎ フジドリシジミ	高尾山、犀奥、白山	野中 勝	44、46、58
◎ ムモンアカシジミ	1955年中宮湯ノ谷での古い記録のみ	松田俊郎	48、50、53、54、66
◎ オナガシジミ	白見谷、犀奥で1978年確実な記録	野中 勝	3、27
◎ メスアカミドリシジミ	医王山でのみ確実な記録	野中 勝	4、7、20、27、42
◎ カラスシジミ	別当出合での古い記録のみ	松井正人	53、59、95
◎ ミヤマカラスシジミ	岩間1♀のみ	野中 勝	27、34、35、45
△ クロシジミ	上寺津発電所付近、1978、1♀	————	2
× ミヤマシジミ	手取川上流、河川敷	————	
◎ キバネセリ	白山、津幡町、1971	松井正人	22、33
◎ ホシチャバネセリ	記述なし	松井正人	17、22、59、60
◎ ホソバセリ	白見谷、湯涌、北袋、大平沢1978	松井正人	22、45

石川県産のカミキリムシ科について

井 村 正 行

石川県は本州中部の日本海側に位置し、また白山という標高2600mを越える山を配しているため、カミキリムシの種類数における条件は良いように思われる。しかしながら白山が独立峰であること、かつ白山山系における針葉樹林の発達、ヒメコマツと標高2000m付近のアオモリトドマツさらにその上部のハイマツを除けば、種類、樹量ともに大変貧弱であることから、それらの要素を必要とするカミキリムシの記録は少なく、種類数もそれほど多くない。

本県のカミキリムシ科は、石川県産甲虫類初出文献一覧表(高羽,1992)でまとめられ、270種が記録されている。その後、クビアカハナカミキリ(井村ほか,1993)、ニセハイイロハナカミキリ(入場 登氏が記録され、「とっくりばち」に報告を予定)の2種が記録され、前出の高羽(1992)から抜けていたトホシハナカミキリ(日本鞘翅目学会,1984)を含めると、本県には現在 273種のカミキリムシが記録されている。それらを筆者なりに検討した事を、ここに記しておきたい。

1. マルクビヒラタカミキリ *Asemum amurens* とオオマルクビヒラタカミキリ *A. striatum* の2種について

この2種については現在、オオマルクビヒラタカミキリ *A. striatum* 1種だけが日本に産するものと扱われているので、本県産もオオマルクビヒラタカミキリ *A. striatum* 1種にすべきものと思われる。

2. ナガビメハナカミキリ *Pidonia signifera* について

本種のうち北陸地方に産するものが、ホクリクヒメハナカミキリ *P. jasha* として別種記載(Saito, S. & A. Saito, 1989)された。しかし現在、その別種とされた特徴の中間型が確認されていることから、別種としての扱いが妥当か否かが検討されているが、本県のものは *P. jasha* の特徴が顕著に現れているので、現時点ではナガビメハナカミキリ *Pidonia signifera* をホクリクヒメハナカミキリ *P. jasha* と種名を変更しておきたい。

3. オヤマヒメハナカミキリ *Pidonia oyamae* について

これは、澤田(1992)によって、ムネアカヨモモンヒメハナカミキリ *P. masakii* の誤りと訂正されたので、本県産より外したい。

4. ムネモンヒメハナカミキリ *Pidonia maculithorax* について

従来ムネモンヒメハナカミキリ *P. maculithorax* と呼ばれていたものがセンヒメハナカミキリ *P. misenina* とツマグロヒメハナカミキリ *P. maculithorax* に分かれ、本県にはムネモンヒメハナカミキリとしてセンヒメハナカミキリ *P. misenina* が記録されていたが、ツマグロヒメハナカミキリ *P. maculithorax* も記録(澤田,1993)された。詳細については澤田(1993)を参照されたい。

5. ヒゲナガアメイロカミキリ Obrium longicorneについて

従来本種とされていたものは、長崎産のholotype以外は、サドチビアメイロカミキリ O. japonicum であることから、本県産のヒゲナガアメイロカミキリ O. longicorne もサドチビアメイロカミキリ O. japonicum と種名を変更しておきたい。

6. アヤモンチビカミキリ Sybra ordinata について

本種を記録された松枝 章氏のご好意により標本を確認したところ、シロオビチビカミキリ S. subfasciata の誤りであったのがはっきりしたので、本種を本県産より外したい。

7. マダラモフトカミキリ Leiopus stillatus について

これまで1種とされた本種に別の1種が含まれていた事が分かり、新種としてニセマダラモフトカミキリ L. masaoi が新たに記載された(TAMURA, S & T. TAMURA, 1991)。その論文の中に入場 登氏と筆者の白山産の個体も含まれているので、ニセマダラモフトカミキリ L. masaoi も本県産リストに加えたい。また、これまで筆者が検した本県産の20頭余りの個体は総てニセマダラモフトカミキリ L. masaoi だったが、両種の混成地もあるとのことなので、マダラモフトカミキリ L. stillatus も一応本県産に残し、今後の調査に期待したい。

8. チビコガミキリ Miccolamia verrucosa について

現在、この種の中には数種類が含まれていると言われ、白山山麓で採集された本種数頭も、上翅のコブ状突起や上翅の毛の付き方、前胸背の形、コブ、側縁の棘の形など大変変化に富んでいる。これについてはより多くの個体を検し、別の機会に発表したい。

9. ヒメハナカミキリ類について

ヒメハナカミキリ類は種の確定が一部流動的であり、将来ほぼ種名当てが確定した時点で、本県産の種名当てともう一度検討して見る必要があると思われる。

10. 同定の再確認について

これまで本県産として記録されているもので、採集例が1例しか無く、その標本の確認が必要と思われるものや、ヒメハナカミキリ類、ヒゲナガコバネカミキリ類、ヒメカミキリ類等同定の難しいものの確認が必要と思われる種について記録しておきたい。

トホシハナカミキリ、オオバヤシヒメハナカミキリ、ホソガタヒメハナカミキリ、ホクチチビハナカミキリ、ホソハナカミキリ、テツイロハナカミキリ、トゲヒゲトビイロカミキリ、カエデノヒゲナガコバネカミキリ、オダヒゲナガコバネカミキリ、コトラカミキリ、シロスジドウボソカミキリ、ヤツボシカミキリ、ニセリンゴカミキリ、エソトゲムネカミキリ 以上14種。

これらの結果から本県産は、前記の再確認種も含め272種のカミキリムシが記録された事になる。今後、本科は全体として300に近い種が本県から記録されると思われるので、今後更なる調査を期待したい。

《参 考 文 献》

- Saito, S. & A. Saito, 1989. A new Pidonia (Coleoptera, Cerambycidae) from the Hokuriku district, central Japan, Elytra, 17: 193-199.
- TAMURA, S. & T. TAMURA, 1991. A New Species of Leiopus (Coleoptera, Cerambycidae) from Japan, Ent. Rev. Japan, 46(2): 195-197.
- 井村 正行 ほか, 1993. 本県産カミキリムシ科3種の採集報告. 翔, (100): 29.
- 日本鞘翅目学会, 1984. 日本産カミキリ大図鑑. pp. 565. 講談社.
- 澤田 博, 1992. オヤマヒメナガミキリの記録抹消について. とっくりばち, (58・59): 6.
- 澤田 博, 1993. 石川県のカムヒメナガミキリ種群について. 翔, (100): 18-22.
- 高羽 正治, 1992. 石川県産甲虫類初出文献一覧表. pp. 98. 石川むしの会.

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

ハクサンクロナガオサムシ(Leptocarabus arboreus hakusanus (Nakane))の低い標高での記録

江 口 元 章

ハクサンクロナガオサムシは白山の亜高山帯から高山帯にかけて生息し、南龍ヶ馬場や弥陀原といった標高2000m以上の所で発見されている(環境庁, 1979)。

百万石蝶談会のみさんと石川県白峰村の釈迦林道へ採集にいったおり、1992年8月23日に延長しつつある林道の終端付近(メッシュコード 5436-15-69)の水の溜ったU字状側溝でハクサンクロナガオサムシがもがいているのを発見した。ここは標高が約1500mで、これまでで最も低い場所での記録と考えられる。

白山国有林の釈迦林道への立ち入りに関しては金沢営林署の方々に便宜を図っていただいた。ここに感謝します。

ハクサンクロナガオサムシ 1992年8月23日 石川県白峰村釈迦林道(標高約1500m)

《参 考 文 献》

- 環境庁, 1979. 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(昆虫類) 石川県.

《えぐち もとあき 〒920 金沢市泉野出町3-1-16》

ツマグロヒョウモンとオオウラギンスジヒョウモンの雑種が羽化

松 井 正 人

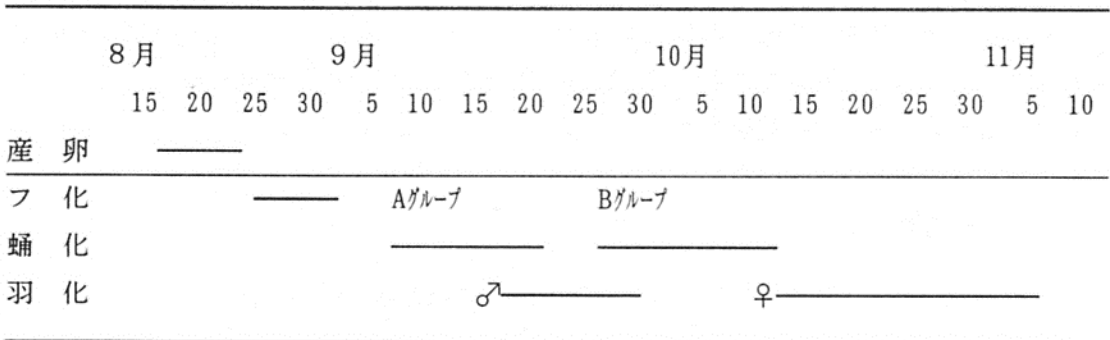
ツマグロヒョウモン(*Argyreus hyperbius*)♀とオオウラギンスジヒョウモン(*Argyronome ruslana*)♂の自然交尾個体を採集し、パンジーを用いて297卵を得たことは、既に報告(翔 NO. 98 OCT. 1992)したが、飼育の結果 Plate 1 に示したような属間雑種が多数羽化したので報告する。

1992年8月16日押水町宝達山で、オオウラギンスジヒョウモン♂と交尾中のツマグロヒョウモン♀を交尾状態のまま持ち帰り、採卵の結果297卵を得た。うち285卵を手元で飼育したところ、40♂28♀が羽化した。ここで気になったのは、雄と雌の成長のスピードがはなはだしく違った点であり、雌が大きくまた弱々しい点であった。

母蝶は8月16日～同23日の8日間に297卵を産み、9日目に死亡した。卵は8月25日～同31日の7日間に86卵がフ化し、その後はフ化しなかった。フ化しなかった卵のほとんどはしぼんでしまったが、しぼまなかったものも2～3か月でカビが生えてしまった。

フ化した86幼は9幼が死亡し、残り77幼は成長の速い46幼のAグループと遅い31幼のBグループに分かれた。当初はほとんどパンジーで飼育したが、途中からAグループ5幼とBグループ10幼には外国産スマレ(種不明、ワサビの葉の様な大きな葉を付ける)を与え、残りにはスマレを与えた。成長の速いAグループは9月17日から羽化が始まり、同30日には羽化が完了した。これらは総て雄であった。成長の遅いBグループは10月13日から羽化が始まり、11月5日までに総て羽化した。これらは総て雌であった。食草による差異は雄では感じられなかったが、雌ではスマレを与えたものの成長が遅いように感じられたが大きさに違いは無かった。

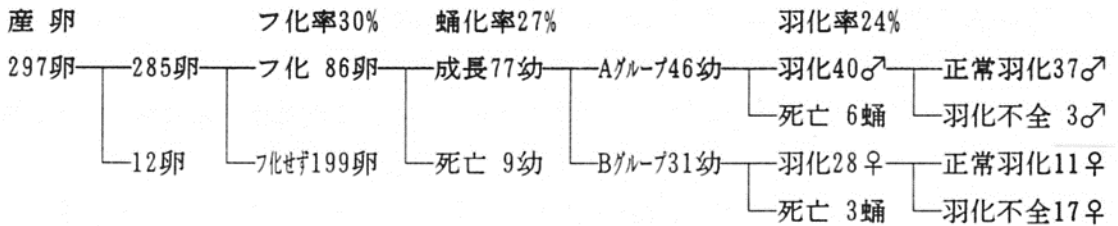
図1. 飼育経過



雄はいずれも元気良く飛び、3頭の軽微な羽化不全個体が認められるのみだった。しかし雌は元気が無く、特にスマレで飼育したもののほとんどが、翅は伸びているが折れ曲がっている羽化不全個体だった。羽化箱を覗くと、蛹殻の真下にペタッと落ちたままの状態であることから、低温障害によるものかと思い、雌の羽化期半ばよりスマレ食にのみ、

サーモ管理のヒヨコ電球で約20～25℃の温度をかけたが結果は同じだった。雄の前翅長が35mm、大型のオウラギンスジヨウモンの雌でも前翅長が40mm前後なのに対し、この雌は前翅長が45mmもある大型なことから、羽化途中に自重が支えきれずに落下したものと思われる。またスマレで成長した雌の正常個体が、4/18(3蛹の死亡を含む)の22%なのに対し、外国産スマレで成長したものは、7/10の70%と結果が違ふことから、食草による栄養障害も関係していると思われる。

図2. 飼育結果



F₂を期待したが、自然、人為ともに交尾は成立せず、F₁の雄、雌双方とツマグロヒョウモンとのもどし交配も試みたが、1例だけF₁♂とツマグロヒョウモン♀の交尾が成立したように見えたものの、産卵された36卵はフ化しなかった。これは交尾したF₁♂に生殖能力が無いのか、見せかけの交尾だったのかは不明である。また、ハチミツを薄めた餌で約30日生存した雌を死後開腹してみたが卵は確認できなかった。

最後にF₁の特徴について述べると、斑紋は表裏ともに特にどちらとも言えない中間型で個体差もほとんど無く、強いて言うなら黒斑に丸型とか月型の傾向が現れる程度であった。しかし、雌にはツマグロヒョウモン最大の特徴である白帯がなく、かわりにオウラギンスジヨウモンの特徴とも言える三角形条の小白班が現れる事や、雄ではツマグロヒョウモンではなくオウラギンスジヨウモンにはある発香鱗条が見られることから、前翅表はオウラギンスジヨウモンの特徴が強く、後翅表についてはオウラギンスジヨウモンとウラギンスジヨウモンを見分ける時に使われる黒班列が、ツマグロヒョウモンのそれに良く似ている事からツマグロヒョウモンの特徴が強い。ただし、雌雄共にツマグロヒョウモン特有の紫黒色が見られず、翅表地色はオウラギンスジヨウモンに似ている。

またF₁は多化性で、ツマグロヒョウモンの形質を受け継いだ母性遺伝とも思えるが、多化性が一化性に対して優性だったのかも知れない。この件に関しては、雌雄を入れ替えた追試で確認されるだろう。

末筆ながら、今回の飼育に多大な協力を頂き、発表に当っては貴重なご意見を賜った野中 勝氏に心からお礼を申し上げる。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

白山のホシミスジの黒化傾向について

野 中 勝

ホシミスジ(*Neptis pryori* Butler)は本州、四国、九州に分布する種で斑紋などに目だった地理的変異は見られないとされる(福田晴夫他、1983)が、後翅表面外側の白帯の消失しかけた個体は各地に出現することが知られており、特に高知県物部村、埼玉県大滝村では多くの個体はその傾向を示すと言う(藤岡知夫、1981)。筆者は1983年の中西重雄氏の採集品により、白山地方の個体にも同様の傾向がかなり強く現れる事を知り、以後本種に注目してきたものの、白山地方の本種の個体数が多くない事もあって、未だに何時になったらある程度の結論を述べられるだけの、まとまった標本を得られるか分からない状態にある。そこで現在検することのできた標本の範囲内で、白山地方産の個体群の傾向を写真を添えて紹介する。発表に当たり、標本を貸与下さった中西重雄、指田春喜両氏に感謝したい。

先ず Plate 2 の写真を見て頂きたい。左側は後翅表面外側の白帯の消失傾向の著しいもの、中央は白山地方では平均的な個体、右側は比較的この白帯の発達の良い個体である。比較的白帯の発達の良い右側の個体でも他地域の平均的な個体と比べると白帯は細く、左側の個体では白帯は殆ど消失しかけている。したがって白山地方の本種が全体としてこの白帯の発達が悪い傾向にあることは疑いないであろう。但し、今回検し得た標本は20頭足らずであり、石川県内の他の産地、金沢市や加賀地方(松井正人、1992)のものとの比較や、白山地方で標高ごとに白帯消失傾向に違いがある可能性の検討等が、今後の課題と思われる。

《参考文献》

藤 岡 知 夫、1981. 日本産蝶類大図鑑. 講談社.

福田晴夫・他、1983. 原色日本蝶類生態図鑑(II). 保育社.

松 井 正 人、1992. 石川県のタテハチョウ3. 翔, (98):3-10

《のなか まさる 〒920-13 金沢市末町14-70-2》

石川県の自然《昆虫》 石川むしの会・百万石蝶談会編 111頁(¥3200円)

石川県で見られる昆虫の最も美しい瞬間を、四季折々にとらえた写真集。撮影者の並々ならぬこだわりが、一枚一枚に迫ってくるようで、「自然を彩る小さな命」がビビッドに表現されている。



石川県昆虫総目録作成の声をめぐって

徳 本 洋

●事はこのように始まった

石川県昆虫総目録をつくろう、という声が出たのは1992年4月18日である。場所は写真集「石川の昆虫」編集委員会の最終会合がおこなわれた県庁内の会議室であった。1990年秋に始まり、喧々諤々（けんけんがくがく）と、深夜0時におよぶのは通常のこと、時には夜中2時近くにまで及ぶという、いささか気違いじみた（？）この編集委員会の一年半も、ついに色校正がこの日に終わり、あとは出版を待つのみとなった。一同がほっと一息ついたそのとき、「百万石蝶談会」と「石川むしの会」の合力したこのすごいエネルギーを、何か次の目標を作って結集したらどうか、という声が出てきた。その結論が石川県昆虫総目録作成である。

富山県も福井県も、県の自然環境調査予算で、それぞれ立派な県産昆虫総目録を発行している。石川県はこれに先駆け、1978年に県環境部が出しているが、かなり簡略な形のものである。しかも発行後15年を経た現在、その後の調査は格段に進展しており、発行時と現在もっている知見との差が大きすぎる。しかも、その情報は専門分野外の者にはまったく分からず、利用のしようがない。現状をこのあたりで一応まとめ、全貌を把握することで、次の発展の基礎資料としよう、というのがその言い分である。

北陸3県は、隣同士ということで、とかく競争意識を働かせがちであるが、これもその一つといえなくはない。県単位で物事を考えるというのは、人間単位のみみっちいことで、虫たちには県境などという行政単位はまったくない。もちろん、国境もない。広く世界に目を向けて活動すべきだ、と国外を飛び回っている会員もある。まあ、そうはいっても、住んでいる地元のことが、たいていの人には、一番調べやすいし、関心があるのは事実であるし、県単位のけちな競争根性も、エネルギーのはけ口としては手ごろでもある。自然環境に対する世の関心も、うまい具合に高い、というのが、この席に集まった虫屋たちの心底かも知れない。

●はたして、できるのだろうか

それは、それとして、簡単にはいうものの、総目録となると、これはたいへんな仕事である。だいたい、石川県内の虫屋、特にその中核をなしていると自分では思っている各アマチュアは、それぞれのレパートリーがはなはだ狭い。もちろん、かくいう私でもある。しかも関心をもつ分野が特定の昆虫に集中している。その上、人数は少ないときでいるから、それらを全部たし合わせても、昆虫世界のきわめてわずかの部分をカバーできるに過ぎない。

昆虫全分野を網羅するなど、とんでもない。手をつけられる部分だけでやろう、という考えも当然である。全国の多くの県ですでに発刊されているものを見ても、その手が多

表1. 石川県(1978)、福井県(1985)、富山県(1979)、愛知県(1990、1991)の掲載種数.
石川県(1978)の種名掲載状況については次によって示す.

◎：当時判明していた全種の種名を掲載.

○：当時判明していた種のうちの一部のもののみを掲載.

目 名	石川	福井	富山	愛知
1 Collembola トビムシ目		93	18	3
2 Protura カマアシムシ目		15		8
3 Diplira コムシ目		6		
4 Microcoryphia イシハムシ目		4	1	
5 Thysanura シミ目		1	1	
6 Ephemeroptera カゲロウ目		34	31	
7 Odonata トンボ目	◎ 78	89	73	93
8 Plecoptera カゲラ目		25		
9 Embioptera シロアリモドキ目				
10 Blattaria ゴキブリ目	◎ 6	5	6	9
11 Mantodea カマキリ目	◎ 8	7	7	7
12 Isoptera シロアリ目		1		2
13 Orthoptera バッタ目	◎ 81	92	72	108
14 Phasmida ナナフシ目	◎ 3	5	3	7
15 Dermaptera ハサミムシ目	◎ 10	11	8	9
16 Grylloblattodea ガロアムシ目	◎ 1	1		1
17 Psocoptera チャクテムシ目		3	4	
18 Mallphaga ハジラミ目		5		3
19 Anoplura シラミ目		2		11
20 Thysanoptera アザミウマ目		2		
21 Hemiptera カメムシ目	◎ 366	466	369	423
22 Neuroptera アミメカゲロウ目		38	39	
23 Coleoptera コウチュウ目	◎ 1504	2640	1416	2260
24 Streptoptera ネジレバネ目		5		
25 Hymenoptera ハチ目	○ 146	908	447	186
26 Mecoptera シリアゲムシ目	○ 4	11	17	
27 Siphonaptera ノミ目		5	5	
28 Diptera ハエ目	○ 245	231	338	267
29 Trichoptera トビケラ目		42	48	
30 Lepidoptera チョウ目	◎ 1231	1792	1746	2592
計	3683	6539	4649	5989

いのは事実である。石川県で既刊のものも、もちろんそうである。しかし、それにしても「石川県の昆虫」とかいう名をつけるからには、昆虫全分野のかなりの部分を扱わねば、名が体をなさないであろう。では、どうすべきかということになるが、その前に既発行の「石川県の昆虫目録」の内容を一度、具体的に見てみよう。

●昆虫相の解明度をくらべて見れば

表1に石川県(1978)と共に、福井県、富山県、愛知県の昆虫総目録の掲載種数を示してある。これらの県を取り上げたのは、近県であるという理由によるもので、全国的には県内の総括リストが発行されている県は他にもかなりある。また福井県、富山県も、発行してから年数を経ており、特に富山県は14年も経過しているから、その後に公表されている単報を集計するだけでも、既記録種数は大きく変わっている。しかし、それを調べる作業は、私のような県外者には困難なので、とりあえず古い資料で我慢していただきたい。

この表を見ると、それぞれの県で、どの分類群がよく調べられているか、ということが、だいたい分かる。たとえば、甲虫類は福井県が突出して、種数が多い。これは福井県の昆虫目録作成のリーダーであった福井大学の佐々治教授が甲虫分類の専門家であることがおおいに関係している。福井県の甲虫相の究明は、この後も着実に進み、1990年には3000種を突破した(佐々治, 1990)。一県で、まとめられた甲虫の種数が3000を越えているのは、神奈川県(1987年に3005種)、福岡県(1989年に3027種)とわずかしかないらしい。佐々治先生によると、神奈川県は、県内の日本鞘翅学会員数60名と福井県の3名よりはるかに多く、新種記載経験者が神奈川10名余、福井1名だそうだ。だから、福井県がきわめて乏しい人数で、これだけの成果をあげたことは誇りうることだろう、といっておられる。なお、福井県の既記録全昆虫種数は現在7000種を越えている(羽田, 1991)。

このような例を見ると、石川県も甲虫は3000種を目標にせねばなるまい。高羽正治氏のたいへんな努力で、先ほど石川県産甲虫類初出文献一覧表(1992)が作成されたが、これに掲載されたのは2242種である。その後もつぎつぎと石川県初記録種が見つかるが、3000はまだはるかに遠くかすんで見える。石川県内在住の若手甲虫屋はかなりいるが、奮励努力されたい。ちなみに、石川県内在住の鞘翅学会員は本蝶談会会員でもある高羽氏1名だけである。

チョウ、トンボは、もともと種数の少ないグループである上、同好者が多いから、ファウナ的にはよく調べられており、今後、種数が増えることはあまり考えられない。しかしチョウ目でもガ類となると種数がいちじるしく多く、そこへもってきて調査者人口も少ないから、研究の進展次第では大幅に記録種数は伸びるであろう。ガ類の記録種数を表2に示してある。なお、このデータはすべて、石川県内で精力的にガ調査を進めておられる富沢章氏の教示によっている。

表 2. ガ相の解明状況

	石川	福井	富山	新潟	長野	岐阜	愛知
蛾全種	1820	1677	1610	1980			2464
ヤガ科	553	555	559	688	726	661	702

表 2 の福井、富山は前記の表 1 と同じ文献によっている。また、石川、新潟は現在までに県産として諸文献に記録されたものその他の総計である。

この表を見ると、いわゆる北陸三県はほとんど同じ種数である。新潟県が北陸三県より、ぐっと多いのは、ガ研究者の数が多く、研究者のレベルも高いからだという。また愛知の種数が多いのは、この県では調査者数が多いだけでなく、暖地性種が多く、ミクロのガの究明も進んでいることによるという。

日本産ガの中では、ヤガ科がもっとも種数が多いのだが、体が比較的大きいので、とりつきやすいグループである。それでどの県でも、このガは比較的良好に調べられているので、各県のガ相の比較には、この科を使うと便利である。それで表 2 にはヤガ科の数値もあげてある。

このヤガ科の数をみると長野、岐阜の種数が多い。これは日本アルプスをそれぞれの域内にもつことが関係していると思われる。ところが日本アルプスをもたない愛知や新潟の種数がなかなか大きい。これらの事実からすると、ヤガ科だけでも石川県からは 700 種ぐらいは当然記録されてもよいと思われる。しかし、石川県でガを調査している人の数からすると、この目標に近づくには、年 10~20 種ほどの種数増加度の現状を打ち破る大努力が必要であろう。

チョウ目とコウチュウ目は、全昆虫の中で種数の多い目の両横綱であるが、その他の種数の多いグループを見てみよう。まずカメムシ目である。この目を異翅亜目と同翅亜目に分けて各県の解明状況を示したのが表 3 である。

表 3. カメムシ目の解明状況

	石川	福井	富山	愛知	埼玉(1978)
異翅亜目	108	241	209	247	243
同翅亜目	258	227	160	176	176
計	366	468	369	423	419

これを見ると石川県は異翅亜目の調査状況が格段に低い。この亜目はいわゆるカメムシの類やアメンボなどが含まれているのだが、各科別に解明種数を調べると、石川県はどの科も解明種数が少ないが、中でもナガカメムシ科やメクラカメムシ科といった、もともと含まれる種数の多い科の解明度がたいそう低い。またアメンボ類はまったくブランクに

なっている。これらのことは今後、調査を進めるにあたり、念頭に置いておくべきであろう。

ところがセミ・アワフキ・ウンカ・ヨコバイ・アブラムシ・カイガラムシなどが含まれる同翅亜目は石川県が表中ではもっとも種数が多い。これはウンカ・ヨコバイ・アブラムシ・カイガラムシの解明度が他県より格段に高いことによる。これは当時、県農業試験場におられた川瀬英爾氏・石崎久次氏といったウンカ・ヨコバイのベテランの成果であり、松枝章氏・竹谷宏二氏・農業短大の富樫一次氏のアブラムシ・カイガラムシ調査の結果によるものである。富樫氏の調査はその後も続いているから、現在はもっと進展しているであろう。

種数の多いことではコウチュウ目と並ぶのは本来はハチ目かも知れない。しかしこの類は、特に微小な寄生性ハチのように、分類がきわめて専門的なものがあり、一般人には近寄りがたい。やや大きな体のものには、その気さえあればアマチュアでも、とり扱えそうなものもあるが、やっている人は少ないようである。そのためハチ目は表1でもうかがえるように、県別リストで多くをあげてある県は少ない。福井県が格段に多い種が記録されているのは、福井大学にハチの大家の常木勝次先生が長く在任され、そのお弟子で今も福井県内で活躍している方がいるからである。石川県既発行のリストでは、ハチ目は総括的解説だけの形をとり、リスト形式をとらなかったのも、取り上げられた種数は表1のように少ない。しかし石川県には、ハチの専門家の富樫氏や金沢大学の大串龍一氏がおられるので、正式にリストの形をとれば、石川県の種数は全国でもトップレベルをいくであろう。また特に富樫氏の専門であるハバチ類では間違いなく、全国一の種数があるものと思われる。

また、かなり種数の多いグループにはハエ目もある。この類はかつて金沢大学に故堀克重氏や倉橋弘氏（現国立予防衛生研究所）といったハエ分類の大家がおられたため、ハエについてはかなりよく分かっている。しかし石川県の既発行リストでは、ハチ目と同じくハエ類は総括的記述の形をとっているのも、取り上げられた種数は多くない。富樫氏はいろいろな専門家に、多くのハエをその後も同定してもらっており、それらの成果のいくつかは既に発表されている。最近では、加賀市在住の石川むしの会会員、佐伯芳造氏らによるの県内ショウジョウバエに関する報告もいくつか出ており、これらをきちんとリストすれば石川県産の既記録ハエは相当に多いであろう。

なお、ハエ目には、ガガンボなど、いわゆるハエには入らないグループが多数あるが、これらの県内産種の解明度は残念ながら、はなはだ不十分である。しかしカ科やブユ科のように、よく調べられているものもある。富樫氏は今年は白山のガガンボの報告を書かれるやに聞いている。

バッタ目もかなり種数があり、県内種についてはある程度は分かっているが、最近のこの類の分類学の進歩にあわせて、誰か、専念する人が出てほしい。

小さなグループでは、シリアゲムシ目は既発行の石川県昆虫目録では、概説的記述しかなく、4種しか載っていないが、富樫氏によってひじょうによく調べられている昆虫であり、他県に比べると断然解明度は高い。

先に石川県昆虫リストを発行した時点では、適当な執筆者がいなくて、まったく取り上げられなかったものに、水棲昆虫の代表的グループであるカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目がある。これらは、その後、水棲昆虫を専門とされる大串龍一氏、谷田一三氏（現大阪市立大学）がそれぞれ金沢大学、県白山自然保護センターに着任されたため、今は県内のこの類については、たいそうよく分かってきている。また近年さかんな県内各地のアセスメント調査などでも、興味深い種が結構見つかったようである。

トビムシ目、アザミウマ目など、小さい虫ながら、かなり種数のあるグループなのに、ほとんど手つかずのものもかなりある。誰か、やる人はいないだろうか。

こうして、その他の昆虫相の調査現状も述べ出すと、あまりに長くなるので、これで止めるが、県内昆虫相の解明状況のおおよそはお分りいただけたであろうか。

●さて、この後はどうしたらいいのか

もし、石川県産昆虫総目録を作るのであれば、県内在住の会員は知恵を集めて、努力せねばならないが、次のような方法も考えられよう。

- (1) 分担する昆虫分野を決める。
- (2) 担当分野の昆虫の過去の記録を調査整理する。
- (3) 担当分野の昆虫の採集を強化し、記録種を増やす。
- (4) 担当分野外の昆虫もできるだけ採集し、それぞれの担当者に提供する。
- (5) 解明された分や、新記録種は「石川県昆虫目録資料」として、断片的でもいいから、どんどん会誌などに発表していく。

さて、これらを総合すると、石川県昆虫総目録は、関係者が力を合わせれば、少なくとも、そこそこのものは出来そうだとはいえよう。ただ、どう力を合わせるか。費用の出みちはあるのか。よりベターなものは、どうあるべきか。など、具体的な検討はまったく白紙である。また、本会は、その名のごとく「蝶談会」である。蝶の同好者の会が、蝶をすっばらかして、蝶以外の昆虫に熱を上げるのか。そんなことに会誌のスペースをさいていいのか。という大問題？もあろう。

また、狭い一県内ながら、既発表昆虫情報でさえ、その把握は容易ではない。これを円滑にするよい方法はないか、ということもある。

まあ、いろいろ問題はあろうが、とにかく、本誌第100号記念にあたり、特に石川県在住会員各位の活発な討論を期待して、話題提供をした。

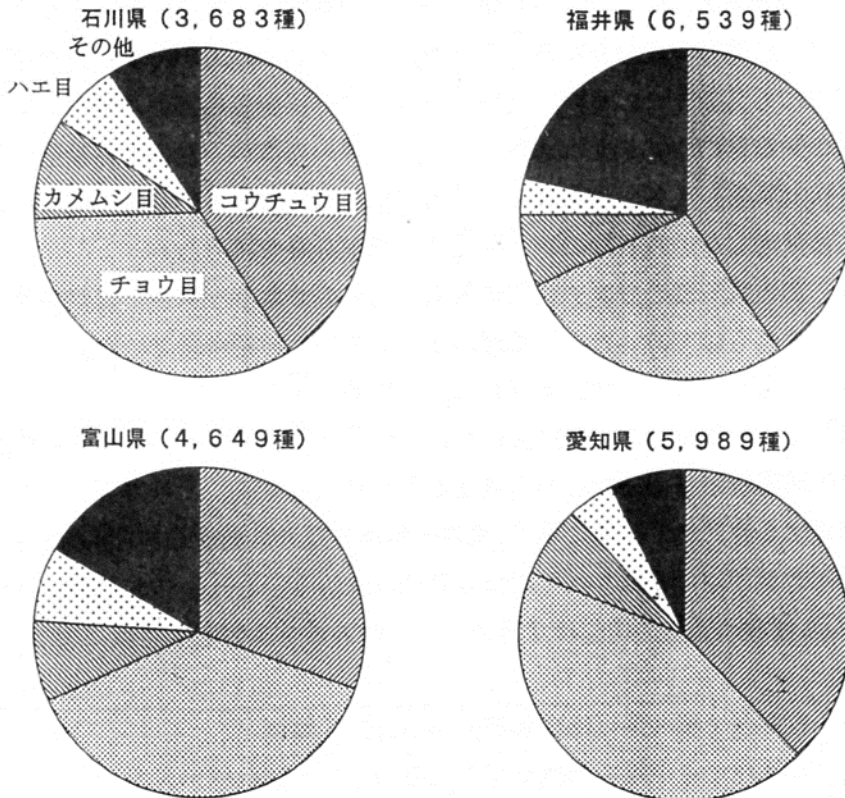
本報を書くにあたり、高羽正治氏、富沢章氏にはいろいろご教示を得たことを記し、あつく感謝します。

《引用文献》

- 愛知県, 1990. 愛知県の昆虫(上). pp.404.
 — — —, 1991. 同上(下). pp.416.
 岐阜県, 1982. 岐阜県の昆虫. pp.556.
 羽田義任, 1991. 7026種を記録した「福井県昆虫目録」. 福井虫報, (9):1.
 福井県, 1985. 福井県昆虫目録. pp.404.
 石川県, 1978. 石川県の自然環境, 第4分冊:1-145.
 埼玉県動物誌編集委員会, 1978. 埼玉県動物誌. pp.558. 埼玉県教委.
 佐々治寛之, 1990. 福井県甲虫目3000種への軌跡. 福井虫報, (6):1-2.
 高羽正治, 1992. 石川県産甲虫類初出文献一覧表. 石川むしの会特別報告, (6):1-98.
 富山県, 1979. 富山県の昆虫. pp.544.

《とくもと ひろし 〒921 金沢市泉野出町1-2-6》

昆虫総目録掲載種数の目別割合



石川県のカクムネヒメハナカミキリ種群について

澤 田 博

カミキリムシ科ピドニア属の仲間は種の判別が難しく、とりわけカクムネヒメハナカミキリ種群は同定が困難であったが、近年の研究の進展が著しく、日本産カミキリ大図鑑(1984)で2種に整理されていたものが、昨年出版された日本産カミキリムシ検索図説(1992)(以下「図説」という。)では5種に分類されている。

このような分類体系になった後における、石川県のこの種群に関する記録が発表されていないので、一部、富山県の記録を含めて、種の区別点を種の分類変更の経緯とともに整理してみたい。(各種については、Plate 2 を参照)

なお、この小文は種の区別点を含めて、松本市の早川広文氏の指導によるところが大きく、まず始めに厚くお礼申しあげたい。

1. *Pidonia misenia* S. et A. Saito (1992) ミセンヒメハナカミキリ (ムセンヒメハナカミキリ)

この種には従来、*Pidonia maculithorax* の学名が当てられていたが、原記載時のタイプ標本の確認からツマグロヒメハナカミキリがそれに当たるとされ、S. et A. Saito (1992) により改めて新種として記載されたものである。

「図説」では、その分布が「今のところ紀伊半島」と記載されており、既に発表されている窪木(1986)、窪木(1987)らの分布に関する検討結果が考慮されておらず、実際は石川県を含め、北陸地方にも分布しているが、水野(1983)によれば奈良県大台ヶ原以外では、稀な種らしく、私の知る県内の採集例は水野(データ不詳)のほか、白山での野中 勝氏(後述)、入場 登氏(私信)の各1♀のみで、雄は採集されておらず、特殊な環境にいるのか、あまり花には飛来しない性質なのか、今後の調査が必要な種である。

野中の採集例は、白山丸石谷のカエデの花に飛来したものであると聞き、私が採集した富山県の有峰では、これも雌であったが、湖畔のオニシモツケの花に来ていたもので、周囲の環境はシラカバ、カラマツの2次林が混じった開放的な所であった。

この時、少し離れた大多和峠のブナの原生林では、他のピドニアは多かったが本種は採集できず、本種の生活場所がおぼろげながら見えるような気もする。

また、野中の記録は6月12日と非常に早く、筆者の釈迦林道での継続調査(澤田, 1990)によれば、カクムネ種群が最初に確認されたのは6月18日であり、これよりまだ早い記録である。なお、カクムネ種群の発生の中心は7月で、7月に入ると個体数が急激に増加する。

【外部形態の特徴】

触 角 の 色	黄褐色で第3節以降の各節先端は幅広く黒色
前 胸 背 の 色	黄褐色で正中線の両側で左右に分割された黒色斑がある
前 胸 背 の 形	側方にとがる

中・後腿節の色	黄褐色（黒色部なし）		
上翅の斑紋	翅端紋あり 会合部縦条は雌では太く、側紋も太い		
腹部	黄褐色で後胸腹板は黒ずむ		
分布する標高	ブナ帯下部からダケカンバ帯		
出現期	6月～7月		
採集例	1983年6月12日	1♀ 石川県尾口村白山丸石谷	野中 勝
	1991年7月15日	1♀ 富山県大山町有峰湖畔	澤田 博

2. Pidonia bouvieri Pic (1901) ブービエメハナガミキリ

従来、この種をカムシメハナガミキリと呼んできたが、KUBOKI(1990a)が Pidonia orientallis Matushita (1933)を再記載し、これにカムシメハナガミキリの呼称を与えることを提唱し、本種をブービエメハナガミキリと呼ぶことになったものである。

本種は、やや高地性で、白山ではダケカンバ帯以上に生息しており、オニシモツケ、シモツケソウなどに普通に見られる。

【外部形態の特徴】

触角の色	黄褐色で第3節以降の各節先端は黒色		
前胸背の色	黄褐色		
前胸背の形	横に広がる楕円形		
中・後腿節の色	黄褐色（黒色部なし）		
上翅の斑紋	翅端紋なし 会合部縦条は雌では太く、側紋も雌は太くなる傾向		
腹部	黄褐色		
生息する標高	ダケカンバ帯以上		
出現期	7月～8月		
採集例	1969年7月21日	1♀ 石川県白峰村白山別当出合	澤田 博
	1991年8月11日	♂♀♀ 石川県白峰村白山釈迦林道上部	澤田 博

3. Pidonia takechii Kuboki (1986) アサヒメハナガミキリ

KUBOKI(1986)によって記載された種で、上翅会合部縦条が発達し、側紋も明瞭で、前胸背は黒ずんでおり、原記載には、長野、群馬、栃木、新潟の各県での採集記録が付されている。

KUBOKI(1990b)はさらに、富山、石川、福井、岐阜県での記録を発表しており、石川県は白山岩間温泉の記録が紹介されている。

Iwama Spa, Ishikawa Pref. 20-VII-1961 1 ♀ Tomizawa leg.

石川県を含む追加発表された地域の本種は、上翅の斑紋、前胸背、腹部の明色化が進んでおり、原記載とは大きく異なっている。

また、窪木(1991a)は、東北地方における新産地を発表し、この種の色彩の地域による変異について解説している。

白山の釈迦林道では、ブナ帯中上部のオニシモツケに多く、日のあたっているシシウド等にも見られ、ダケカンバ帯にも分布している。

分布の上限は確認していないが、高地には少ないようである。

【外部形態の特徴】

触 角 の 色	黄褐色
前 胸 背 の 色	黄褐色
前 胸 背 の 形	ややつぶれた円形
中・後腿節の色	黒褐色～黒色
上 翅 の 斑 紋	会合部縦条細く、側紋は雄雌とも弱く、翅端紋なし
腹 部	黄褐色
分布する標高	ブナ帯下部からダケカンバ帯
出 現 期	6月～8月
採 集 例	1989年6月30日 1 ♀ 石川県白峰村白山釈迦林道 澤田 博
	1991年7月15日 ♂♀♀ 富山県大山町有峰、大多和峠 澤田 博
	1989年7月29日 ♂♀♀ 富山県福光町大門山 澤田 博
	1991年8月10日 ♂♀♀ 石川県白峰村白山釈迦林道上部 澤田 博

4. Pidonia maculithorax Pic (1901) ツマグロヒメハナガミキリ

窪木(前述)等によって独立種として提唱されていた種で、その後の調査の結果、既に述べたように Pidonia maculithorax はこれまでにモンヒメハナガミキリと誤解されてきたが、本種であることが明かになったようだ。

「図説」では、本種の分布を本州(関東地方、中部地方南部、紀伊半島)とし、アサヒメハナガミキリと重ならない分布をしているような表現をしているが、石川県にも分布している。

白山釈迦林道、砂防新道では、アサヒメハナガミキリと混じってブナ帯からオニシモツケ等で観察されるが、個体数はアサヒメハナガミキリほどは多くなく、富山県有峰、大多和峠、大門山では観察できなかった。

【外部形態の特徴】

触 角 の 色	黄褐色で第3節以降の各節先端は黒色
前 胸 背 の 色	黒褐色(にぶく黒ずむ)

前 胸 背 の 形	ややつぶれた円形
中・後腿節の色	黒褐色～黒色(雄は黒化が弱い)
上 翅 の 斑 紋	翅端紋あり(雄でわかりにくい個体もある) 会合部縦条は雌では太く、側紋も雌は太くなる傾向
腹 部	黄褐色
分布する標高	ブナ帯からダケカンバ帯
出 現 期	6月～8月
採 集 例	1989年6月18日 1♀ 石川県白峰村白山釈迦林道 澤田 博 1989年7月31日 ♂♀♀ 石川県白峰村白山釈迦林道 澤田 博

最後に簡単な検索表を示すが、適用は調査した石川県および富山県西部の個体にのみ限定する。

- | | | | |
|----|--|-------|---|
| 1. | 中肢、後肢は黄褐色 | ----- | 2 |
| — | 中肢、後肢は黄褐色で黒色部を持つ | ----- | 3 |
| 2. | 前胸背は黄褐色 | ----- | <u>P. bouvieri</u> ブービエヒメハナカミキリ |
| — | 前胸背に左右の分離した黒斑がある | ----- | <u>P. misenia</u> ミセンヒメハナカミキリ
(ムネモンヒメハナカミキリ) |
| 3. | 上翅端に黒斑があり、触角は黄褐色で、第3節以降の先端は黒化し、前胸背は黄褐色～黒褐色 | ----- | <u>P. maculithorax</u> ツマグロヒメハナカミキリ |
| — | 上翅端は黒斑を欠き、触角は全て黄褐色で、前胸背は黄褐色 | ----- | <u>P. takechii</u> アサマヒメハナカミキリ |

5 *Pidonia orientallis* Matushita (1933) カクムネヒメハナカミキリ

本種は、針葉樹林帯に生息するというが、石川県ではまだ確認されておらず、今後の調査が必要である。

この種は、P. bouvieri ナベヒメナガミナリに良く似ており、KUBOKI (1990a) の検索表に従えば、次のとおりである。

1. 触角は全て黄褐色で、ときに第3節以降の各節の先端が弱く黒ずむ。上翅の側縁部の縦斑は先端部まで延びている。雌の末端節背板は丸い-----
----- P. orientallis カムヒメナガミキリ
- 触角は黄褐色で、第3節以降の各節の先端は黒ずむ。上翅の側縁部の縦斑はその先端部で斜めに弱く切られている。雌の末端節背板は切られた形をしており、ときに中央部で浅く縁取られている----- P. bouvieri ブービエメナガミキリ

カムネヒメハナガミキリ上翅の斑紋には変異があり、側縁部の縦斑を欠くものもある。

また、窪木(1991b)は、生きている時の体色について述べており、頭部や前胸背の色はカムネヒメハナガミキリは焦茶色が強く、ブービエヒメハナガミキリは赤黄色が強いという。

さて、既に述べたとおり石川県のアサヒメハナガミキリ Pidonia takechii は原記載と大きくことなることから、私は長い間、本県の本種を P. bouvieri と誤解しており、澤田(1989)及び澤田(1990)において、カムネヒメハナガミキリ Pidonia bouvieri とあるのは、アサヒメハナガミキリ Pidonia takechii の誤りであったので訂正する。

最後に、この種群の分布に関していろいろと貴重な情報を提供していただき、ミセンヒメハナガミキリの発表を委ねられ、更には写真撮影の労をとっていただいた野中 勝氏に厚くお礼申しあげる。

《参考文献》

- Mikio KUBOKI, 1986. A New Species of the Lepturine Genus Pidonia (Coleoptera Cerambycidae) from Central Honshu, Japan Entomological Papers presented to Yoshihiko Kurosawa on the occasion of his retirement
- Mikio KUBOKI, 1990a. Notes on Lepturine Genus Pidonia (Coleoptera Cerambycidae) from East Asia Elytra 18(1)
- Mikio KUBOKI, 1990b. New Records of Pidonia takechii (Coleoptera Cerambycidae) from the Chubu District, Central Japan Elytra 18(1)
- 窪木幹夫, 1986. カムネヒメハナガミキリ種群の分布について. 昆虫と自然 21(12)
- 窪木幹夫, 1987. ヒメハナガミキリ 日本の昆虫⑤
- 窪木幹夫, 1991a. アサヒメハナガミキリの色彩変異と分布について. 昆虫と自然 26(12)
- 窪木幹夫, 1991b. 上高地ヒメハナガミキリ観察記 まつむし(81)
- 水野弘造, 1983. ピドニ屋繁昌記(2) 月刊むし(151)
- 日本鞘翅目学会, 1984. 日本産カミキリ大図鑑
- 大林・佐藤・小島, 1992. 日本産カミキリムシ検索図説(Pidonia 属は斎藤秀生が執筆)
- Saito, S. et A. Saito, 1992. A New Pidonia from Mt. Misen and its Cohabitants Acta Coleopterologica Japonica (2)
- 澤田 博, 1989. 大門山・赤摩木古山にヒメハナカミキリ属を求めて 翔(81)
- 澤田 博, 1990. 白山釈迦林道ヒメハナカミキリ属調査記録 翔(82)

《さわだ ひろし 〒920 金沢市石引1-16-11》

白峰村釈迦林道で得られた石川県初記録の甲虫3種

野 中 勝

今年も金沢営林署のご好意により、釈迦林道の昆虫類を調査する機会に恵まれた。その際に高羽正治氏の石川県産甲虫類初出文献一覧表（1992）に載っていない石川県初記録と思われる以下の甲虫を採集したので写真（Plate 2）を添えて報告する。

発表に当たり、本調査の便宜を計って下さった金沢営林署経営課長の織田 央氏、同白峰担当区事務所の北本秀一氏に謝意を表したい。

1) クロオオキバハネカクシ Oxyporus niger (写真左)

1992年7月19日 白峰村白山釈迦林道 2頭 野中 勝 採集

オオキバハネカクシ、ヨツボシオオキノコムシ等と共にブナの立枯に生えたキノコに集まっていた。

2) カラフトマルトゲムシ Byrrhus geminatus (写真中)

1992年7月19日 白峰村白山釈迦林道 1頭 野中 勝 採集

1992年8月 2日 " 1頭 野中 充 採集

いずれも地表を歩行中のものを採集した。

3) ベニバナガタムシ Agrilus sinuatus (写真右)

1992年8月23日 白峰村白山釈迦林道 3頭 野中 勝 採集

全てナナカマドの葉に飛来した個体である。

《参考文献》

高羽正治, 1992. 石川県産甲虫類初出文献一覧表. 石川むしの会特別報告, (6):1-98.

《のなか まさる 〒920-13 金沢市末町14-70-2》

翔

バックナンバー 各冊 ￥400円 (12頁～16頁)

但し NO. 5 (ゼフィルス特集) 28頁 ￥600円

NO. 50 (50号記念特集) 48頁 ￥1,200円

NO. 72 (オサムシ特集) 28頁 ￥600円

NO. 79 (台湾特集) 36頁 ￥700円

1992年トンボ3題

松田俊郎

1992年も、もう後数日を残すのみである。今年出会ったトンボのうちから印象に残っている物をあげてみたい。

1. チョウトンボ

嵯峨井(1992)によれば、最近全くその姿が見られないとのことであるが、確かに近年激減している種の1つであろう。

今年は、宇の気町狩鹿野、小松市蓮代寺、加賀市小塩辻などで見ているが、挺水植物の豊富な池沼を好み、水草の浮いていないような池ではまず見られない。上記のうち蓮代寺の中堤の池では比較的個体数が多く、十分に観察することができた。9月頃まで見られるが、7、8月が最盛期であろう。トンボとしては特異な体色であるが、太陽光線を浴びて虹色に輝く様はなかなか美しい。あのひらひらと飛ぶチョウのような飛び方から、これまであまり早く飛べないトンボとばかり思っていたが、なわばり内に侵入してきた雄を追い払うときは、予想外のスピードで飛び驚かされた。

2. マルタンヤンマ

7月の中頃、金沢市曲子原で産卵に訪れたマルタンヤンマを目撃した。目撃した場所は、無数のハッチョウトンボのいた休耕田(野中 勝, 1992)の方であるが、今はもう消滅してしまったそうである。間の悪いことに、カメラもネットも車の中においてきていた時で、急いで取って戻ってきた時には案の定その姿はどこにもなかった。マルタンヤンマの名称は、フランスのトンボ学者、R. Martinにちなんだものだそうだが、日本に産するヤンマの中では最美麗種と言われているもので、特に雄の複眼のブルーの輝きは十分に魅力的である。

8月の中頃、辰口町の白山ゴルフ場付近で偶然ヤンマの群飛する場所を見つけた。午後6時頃から辺りが暗くなるまでの約1時間、黄昏活動性の強いヤンマ達の群飛であった。なかなかネットの届く高さまで降りてこず、だいぶてこずったが、何日か通い詰め、やっとその中の何匹かを捕えることができた。ネットに入れて確認できたのは3種類、ギンヤンマ、ヤブヤンマ、そしてマルタンヤンマであった。マルタンヤンマは2雌を得ているが、ギンヤンマ、ヤブヤンマについては雌雄を得ているので、多数のヤンマに混じって、マルタンヤンマの雄も飛翔していたのではないかと思われる。夕日を浴びて大空を波打ちながら駆けるように飛ぶヤンマ達のシルエットは幻想的でさえあった。

なお、採集したトンボは、種名を確認するか写真に撮るのが目的で、標本としては一切残っていない事をお断わりしておく。

3. アオヤンマ

若草色の衣装を着た綺麗なヤンマである。野中氏から連絡が入ったのは6月中旬であったと思うが、「金沢市曲子原でアオヤンマを採集した」との事であった。早速当地に行ってみると、水面はほとんど見えない程のスゲ原で、そのスゲの間を縫うようにして飛ぶアオヤンマの姿があった。スゲの茎に産卵する雌も見ることができ、ここが発生地であることは疑いなかった。

その後、また野中氏から加賀市の柴山潟でも採れているとの情報を得た。この場所を見つけたのは江口氏との事であった。当地を訪れたのは7月19日の事である。湖岸にはヨシが密生し、まさにアオヤンマの好みそうな環境であった。そして事実アオヤンマは極めて多産していた。ヨシ原が次々と埋め立てられ、アオヤンマが稀種となりつつある現在、ここは県内有数の産地に間違いない。ただ西岸には片山津温泉のビルが林立し、また住宅もどんどん増えているようで、湖面にはかなりゴミが浮いていた。これ以上潟の汚染が進めば、遠からずアオヤンマはその姿を消してしまうであろうことが憂慮された。なお、ここでは秋にマイコアカネも多産することを確認している。

末筆ながら、貴重な情報を提供して下さいった野中 勝氏、江口元章氏にお礼申し上げます。

《参考文献》

嵯峨井淳郎, 1992. 1990年トンボ5態. 翔(95):2

野中 勝, 1992. 採集地案内: 水棲昆虫のメッカ、金沢市曲子原. 翔(97):21

《まつだ としろう 〒920-21 鶴来町大国町ホ94-5》

ゴマシジミと標高について

山 本 直 樹

中部地方のゴマシジミは標高の高い所にも生息している。今回、特に山ゴマ(ssp. hosonoi, ssp. hakusanensis)と言われるものについて、山ゴマ以外の標高の高い産地と比較しながら、若干の生息地の状況について述べてみたい。記録中、Y.Nは中野善敏、K.Yは横山憲治、H.Kは高坂 寿、Y.Tは高橋芳夫、M.Kは勝海雅夫の各氏の記録を表わし、記述の無いものは、筆者が記録している。

1. ゴマシジミの生息地の標高と記録について

- | | | | | | | |
|---|--------|-----|------|--------------|------------|------|
| 1 | 石川県石川郡 | 白峰村 | 砂御前山 | 1,050~1,300m | 1992年8月11日 | 9♂7♀ |
| 2 | " | " | 大長山 | 1,500~1,600m | 1990年7月27日 | 28頭 |

3	"	"	"	赤兎山	1,200~1,500m	1992年8月3日	null	
4	"	"		吉野谷村瓢箪山	1,450~1,550m	1987年8月7日	2♂2♀	
5	"	"	"	奈良達山	1,550~1,600m	1991年8月10日	2♂	Y.N
6	"	"		尾口村丸石谷	800~900m	1991年8月12日	2♂	
7	"	金沢市		見越山	1,450~1,550m	1991年8月10日	5♂3♀	
8	富山県東砺波郡上平村			見越山	1,450~1,550m	1991年8月10日	1♂1♀	
9	"	"	"	袴腰山	900~1,000m	1992年8月1日	2♂4♀	
10	"	"	平村	人形山	1,500~1,600m	1990年8月2日	1♀	K.Y
11	"	"	利賀村	三ヶ辻山	1,500~1,600m	1987年7月30日	1♂	H.K
12	岐阜県大野郡	白川村		三方崩山	1,500~1,800m	1989年8月4日	1♂2♀	Y.T
13	"	"	"	瓢箪山	1,450~1,550m	1987年8月7日	2♀	
14	"	"	"	三方岩岳	1,500~1,750m	1987年8月7日	10頭	
15	"	"	"	野谷荘司山	1,600~1,800m	1987年8月3日	2♂	
16	"	"	"	妙法山	1,500~1,700m	1987年8月6日	1♂	H.K
17	"	郡上郡	白鳥町	水後山	1,500~1,600m	1989年7月30日	10頭	
18	"	揖斐郡	坂内村	三周ヶ岳	1,000~1,200m	1992年8月16日	2♂1♀	
19	新潟県糸魚川市			五輪尾根	1,750~2,000m			
20	長野県北安曇郡白馬村			八方尾根	1,800~2,000m	1992年8月8日	多数観察	
21	富山県上新川郡大山町			祐延貯水池	1,400~1,500m	1988年8月6日	10頭	
22	長野県木曽郡	開田村		髭沢	1,100~1,400m	1990年8月4日	3♂1♀	
23	"	南安曇郡	奈川村	境峠	1,400~1,500m	1987年8月9日	1♀	M.K
24	"	茅野市		車山	1,600~1,700m	1992年8月14日	2♂8♀	
25	山梨県甲府市			帯那山	1,300~1,450m	1989年8月20日	20頭	
26	群馬県勢多郡	宮城村		赤城山	900~1,000m	1989年8月15日	10頭	
27	鳥取県西伯郡	大山町		大山榊水原	1,400~1,500m	1973年8月10日	1♂	
28	熊本県阿蘇郡	白水村		御竈門山	900~1,150m	1988年8月13日	25頭	

2. 食草について

山ゴマと言われるものは、1~21の産地であるが1~20の産地については「カライトソウ」を、21の産地については「ナガボノワレモコウ」を確認している。山ゴマ以外の産地についてはワレモコウを確認している。

3. 産地の状況について

1~20については崖の草原が主な発生地となっている。崖も北向きが多く、2、10、11、

13、14、17、20、については特に北向きが多い。

今までに湿原で発生を確認したのは21と、岩手県の春谷地湿原ぐらいで他は知らない。ただし、1～20は崖の斜面の湿地とも言えるが、発生地は湿っていない所と考えている。その他については全て乾草原で確認している。

4. 最 後 に

まとめでは見たものの、原色日本蝶類生態図鑑(1984)の記述の範疇を越えていないし、十分な調査もまだできていない事を痛感している。山ゴマの調査説明が自分に課せられた事と思い、今後も精力的に取り組み、今後山ゴマに興味を持たれる方が、増える事を期待したい。

今回の発表にあたり、勝海雅夫、高坂 寿、高橋芳夫、出島利明、中野善敏、湯浅純孝、横山憲治の各氏を始め多くの方々に標本や情報等を頂きました。ここに誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。なお私が山ゴマにのめり込むようになったのも、もともとは高坂寿氏、松井正人氏と言う良き先輩がいたからであり、重ねて厚く御礼申し上げます。

《参 考 文 献》

福田晴夫ほか, 1984, 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ), pp373, 保育社

《やまもと なおき 〒771-01 徳島市川内町鶴島248-101》

百 万 石 蝶 談 会 の 想 い 出

諸 道 秀 人

私が本会において活動していたころは、創会の時期にあたり、当時の私は学生でした。その頃、蝶の生態に関しては未知の部分が多くあり、幼虫を追いかけて走り回ったものです。

それから10数年、ほとんどの「石川の蝶」の生活史が判明しました。素晴らしいことです。これも金沢近郊在住の熱心な会員の努力の賜物ではないでしょうか。

しかし、問題がないとも言えません。それは会員の年齢です。どこの会もそうでしょうが、若手がないということです。望むべきことは、自分の子供や近所の子供を虫屋にしましょう。そして、学校の教職にある人は、教え子を虫屋にしましょう。これで虫の会は安定します。

最後に蝶談会の未来に対して、万 歳！！

《もろみち ひでと 〒520-21 大津市一里山1-8-23》

雑 感 数 題

下 田 俊 幸

金沢に赴任して1年半、当地の印象を述べますと、

- 1) 気象の変化が顕著であること
- 2) 自然が身近にあること
- 3) 保 守 的 で あ る こ と

に要約されます。

以下、一面的な見方かも知れませんが、具体的に説明していきたい。

1) 気象の変化が顕著であること

著名な作家が「金沢は1年中の天気を1日で味合うことができる…」と述べているように、大陸からの気流をまともに受ける地域のせい、北陸地方の中でも特に変化が激しいようだ。ちなみに雷の発生量と降雨（雪）量は全国主要都市の中でも1番だという。四季も明瞭で、「うららかな春」、「蒸し暑い夏」、「錦絵の秋」、「雪吊りの冬」と循環している。総じて多湿で、日照時間も少な目という気象条件から、街路樹さえ苔むしているのには驚かされる。こうした気候は、昆虫類の生態に少なからず影響を与えているのではないのでしょうか。

2) 自然が身近にあること

市中心部（金沢市広坂）の金沢大学付属小学校の校庭で、ゴマダラチョウがカシワの樹液を吸っていたり、オフィスビルの窓辺にスミナガシが訪れたりするのを目撃するといったケースは、けっして珍しくは無いのででしょうし、市街地から車で10分も行けばギフチョウの多産地があり、また近郊の医王山方面では空駆けるオオムラサキの雄姿や、ゼフィルス類の珠玉の如き姿に接する事ができる等、虫屋にとって素敵な環境にあるのではないのでしょうか。

3) 保守的であること

伝統に根ざした「百万石意識」というか何というか、新規参入の排斥、改革を嫌う風潮が、当地の既存の経済界等各界各層の人達に存在するとの見解が有りますが、ある意味では自然科学分野に対しても、こうした傾向があるのではないかと思います。というのは、例えば伝統文化に係る「美術館」「工芸館」等の施設はあっても、どちらかというと将来を目指す「科学博物館」に相当する施設が無いことがあげられましょう。欧米では、人文科学と自然科学が並行して進展してきている訳で、例えばハプスブルグ家の首都であったウィーンでは王宮前に、美術史博物館（美術館）と自然史博物館（科学博物館）が左右対称の形で向い合って建てられている。当地にも「科学博物館」に該当する施設が有れば、当然昆虫関係の展示（研究）も行ないますから、それに付随して若人を中心に一般の

人達にも、昆虫に関心を持たせ、正しい認識を深耕させる事が可能になるのではないで
しょうか。また、そのためには我々としても施設設置の運動を推進するとか、個人で匿蔵
しているコレクションを公共的に活用し生かして行くことが要請されてくるとわれま
す。それが結果的には「昆虫学の発展」、「昆虫採集の復権」に結び付くのではないで
しょうか。

《しもだ としゆき 〒921 金沢市泉丘2丁目13-18》

本県産カミキリムシ科3種の記録

井村正行・上田 昇・中西重雄

1. ヒラヤマコブハナカミキリ Enoploderes bicolor OHBAYASHI

1992年5月10日 石川県小松市大山 1♂ 井村正行

山地性ゲンゴロウ類の調査の折、山間部の小川のよどみに浮いていたものを採集した。
本種はこれまで白山山麓に3例の記録があるだけであり、今回の場所はこれまでに記録さ
れた場所からもかなり離れている。

2. クビアカハナカミキリ Gaurotes atripennis MATSUSHITA

1992年5月10日 石川県小松市蓮代寺 1♀ 上田 昇

ゲンゴロウ類の調査をしていた夕方頃、林縁の木の葉に止まっていたものを採集した。
この種はこれまで県内では記録されていなかった。

3. ヘリグロアオカミキリ Saperda interrupta GEBLER

1992年8月19日 石川県石川郡白峰村白山釈迦林道 1♀ 中西重雄

釈迦林道は最上部の標高が1600m付近で、今も開設工事は続けられている。この林道工
事で伐採された、アオモリトドマツが交ざる伐採地で本種を確認した。県内における本種
の記録はこれまで1例しか無く、追加記録が望まれていた。確認は野中 勝氏と筆者の
1人である井村正行氏の両方にもお願い頂いた。また釈迦林道への立ち入りに関しては、
金沢営林署の方々に便宜を図って頂いた。ここに合わせてお礼申し上げる。

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

《うえだ のぼる 〒920-01 金沢市百坂町イ27-9》

《なかにし しげお 〒921 金沢市法島町9-49》

1992年を振り返って

山 岸 善 也

蝶談会の会員になってもう何年にもなるのに、採集には年に3、4回出かけるだけで会誌に投稿もせず、ただ会合に出席して会員の方々の昆虫談義を聴くだけのお客さんになっている。今は福井県に住んでいるため、仕方がない面もあるのだが、採集に対する情熱が低下してきたのも事実だ。ところが昨年1992年は、比較的活動した年であり、1年を通じて10回程採集や調査に出かけたので、それについて少し書いてみたい。

春になると、毎年ギフチョウの採集に出かける。福井県では何といっても南条郡の杣山で採れる異常型が良く知られて、採集者も多い。『月刊むし』3月号(NO.253)には当会員の指田氏による、北陸地方のギフチョウ採集地紹介が掲載され、私が数年前に採集した異常型の写真も載せていただいた。昨年は4月8日に杣山周辺で7頭採集したが、異常型はなし。平日というのに採集者がけっこういるのに驚いた。

夏は、仕事が比較的暇だったせいもあるが、天候にも恵まれ、7～8月の1ヵ月間に6回も白山周辺へ採集に出かけた。1976年に石川県尾口村の岩間噴泉塔付近で偶然にゴマシジミ1頭を採って以来、何と16年ぶりに今度は石川県白峰村の砂御前山で6頭採集できた。登山道を40分程歩き、採集ポイントの岩場に着了いた時には汗びっしょり。青空に浮かぶ白い雲を眺めながら、誰もいない岩の斜面に座りこんで休んでいると、どこからともなくゴマシジミが飛来する。「いた、いた。見つけた。」と心の中で叫ぶ。もう今までの疲れも吹き飛んでしまう。こんな感じは久しぶりだ。次くる時にはカメラとビデオを持参したいと思っている。

秋も終わりの11月17日と24日に石川県山中町我谷周辺へ、ヒサマツミドリシジミを探しに出かけた。私の住む福井県丸岡町から山中町は県が違いますが隣どうしで、山越えの道で30分とかからない。この辺りは、以前にも会員の方が何度か採集や採卵に来ているようだが、まだヒサマツは採れていない。この採卵にあたって、柿採り棒をわざわざ購入して出かけた。風谷の発電所付近はウラジログアシも多く、滋賀県の永源寺付近に似ており、いても不思議ではないと思われるが全く採れない。2日かけて探し回ったが結局採れずに帰った。

冬に入ってから、福井県では何か珍しい蝶が採集できないかと思い、『翔』を読み返していると、NO.12(1980年)に嵯峨井氏の「石川・富山・福井の蝶」を見つけた。これは、1979年での記録をまとめたものだが、北陸3県を比較した場合、102種が共通種、28種が非共通種とされていて、表にしてまとめている。この表を見ると石川県にいて福井県にいない蝶が何種かいる。その中に以前『翔』でよく取り上げられたオオヒカゲがいる。そのほかにも、カラスシジミ、ミヤマシジミ、アサマシジミ、ヒメシジミ、クモマベニヒカゲ、エルタテハ、ヘリグロチャバネセセリ、といった蝶がいる。探すならこの中からだと考え

たが、10年以上経過した現在、新たに発見された蝶もいるはずだと思って、福井県の蝶に詳しい下野谷豊一氏を尋ねて御教示いただいた。それによると、期待したオオヒカゲは福井県では全く採れていないとの事。まずいないだろうとの事だった。残念。ヒメシジミ、エルタテハ、スジグロチャバネセセリは既に採れているようで、カラスシジミはまだ記録はないが捜せば採れるだろうと話された。福井県での記録はあるが、いか怪しいのは、クロツバメシジミだそうで、ヒメヒカゲやチャマダラセセリは以前に記録はあるが最近採れていないとのことだった。こうなると福井県では、カラスシジミのほかミヤマシジミ、アサマシジミ、クモマベニヒカゲ、ヘリグロチャバネセセリを捜すのが最も採集できる確率が高い事になる。

下野谷氏は、ギフチョウを飼育し蛹の時期の温度を低くすることで、異常型を羽化させる実験をされており、変わった蝶が羽化すると言っておられた。杣山の異常型は、遺伝的なものだろうが、寒冷地で見つかる異常型には、遺伝以外のものも含まれているようだ。私は南条で採れるギフチョウの異常型の発生頻度や遺伝形式に興味があるので、今後調べてみたいと思っている。

《やまぎし ぜんや 〒910-02 丸岡町新鳴鹿2-100 C1-403号》

1 9 9 2 年 収 支 報 告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金 額(円)	項 目	金 額(円)
1 9 9 2 年度会費	80,000	会 誌 作 成 費	81,920
当該年度以前会費	10,000	例 会 費	12,000
会 誌 売 上 金	14,850	助 成 費	0
郵 送 負 担 金	11,620	郵 送 費	31,983
写 真 集 売 上 金	67,500	消 耗 品 費	4,542
前年度繰越し金	8,286	次年度繰越し金	61,811
計	192,256	計	192,256

備 考

↑ 年 会 費 2,000円

↑ 写真集売上金 2,500円×27冊

↑ 郵送負担金 500円

ギフチョウの思い出

中 川 邦 隆

虫採りを再開してから早いものでもう20年余。再開のきっかけを作ってくれたのは、栃木県日光勤務時代の社宅の庭に次々訪れてくれた蝶達（カラスアゲハ、ウスバシロ、ホシミスジ、ルリタテハ等々）でした。ギフチョウは故郷の金沢でたくさん見てきたので、是非日光でも採ってやろうと意気込んだのですが。残念！生息していない事が分かり、逆にギフへの想いが一気に高まり、今では甲虫が好きな小生も、春のシーズンには毎年何回かギフ採集に出かけて来ました。所変わればギフも変わると言われますが、ギフの地理変異ではない、私の思い出に残るギフ採集を書いてみました。

1. 1974年5月13日 石川県鶴来町倉ヶ岳 1♀

「最初のギフは是非石川ギフで」という願ひは、この年の4月にも果たせず、5月中旬の帰省となってしまいました。子供の頃良く通った懐かしい倉ヶ岳に行くことにして、昔の記憶を頼りに日御子駅から歩いて頂上へ。アゲハ類を採りながら頂上近くの池の周りでオニギリをパクついていると、見慣れぬ白っぽいチョウが近づいてきたので難なくネット。「アレー ギフ！」ボロの♀でした。ギフとの再開がこの様な時期外れに出来るとは思ってもいなかったので正直うれしかったのですが、反面最初のギフは完品であって欲しいと思っていた気持ちの「アレー」でした。

この後、慌てて付近を探しましたがこれ1頭のみでした。今もこの♀は特別品で標本箱に大切にしまっています。石川ギフはその後、野中、松井両氏に案内して頂いて多数採りましたが、「虎」ならぬ縞々模様。竹林の中を飛ぶふると金沢のギフは最高！子供の頃眺めていたギフの子孫かと思うと、妙に懐かしく今後とも毎年会い続けていきたいと思っています。

2. 1977年4月10日 山口県光市烏帽子岳 3♂

石川県以外のギフを初めて採った所。東京で付き合いのあったK氏と北九州市から地名だけを頼りに出かけてみました。山道へ入り、あえぎながら登ること約30分、小さなピークに出たので待つことにしました。テリトリーを張るキアゲハやルリタテハと競争し、時折（1時間に1頭位）横切って行くギフを追いかけた結果、何とか3♂採集。それにしても同じ日本で、こんなにギフが少ない所があり、かつ速く飛ぶギフがいることを、その時初めて知りました。

3. 1984年4月14日 兵庫県三田市上野 1♂

今は地元のギフ。この日は寒く、かつ桜の花も2分咲き。駅近くの上野、志手原の辺りを歩きまわりましたが、ギフの姿は無く、あきらめて帰りかけた時によりやく小さな空地で1♂見つけることが出来ました。これ以降、2年に1回のペースで三田周辺を訪れてい

ますが、大当りしたことはありません。尾状突起の短いギフです。私のフィールドも行く毎に宅地化、乾燥化が進み、あとわずかの命のようです。田畑のへりで採集できるということも知りました。

4. 1985年4月28日 山形県大石田町川前 1♀

東京に単身赴任していた際にW氏、S氏と3人で出かけた連休ギフ・ヒメギフ採集ツアー。成果は当初の期待とは異なりましたが、湿り気のある雪国、親近感の感じる山形での採集は大型ギフとあわせて楽しいものでした。それにしても川前での虫屋の多さに驚き、情報の早さ、恐ろしさを実感しました。途中で飯屋風の食堂で食べたソバのおいしさにも驚き、これ以降ギフの採集とソバ食いは小生にとってもセットとなりました。

5. 1992年4月29日 鳥取県大山寺 2♂1♀

関西でのギフ仲間であるF氏、S氏と出かけました。快晴のギフ日和でしたが、時期遅くすべてボロ気味。しかし雪を頂く大山を間近に見ながらの採集は、日頃のストレスを充分に解消してくれました。このような白く輝く山々を眺めながらのギフ採集は、何物にも代えがたい最高の気分を味わせてくれます。これだから長野、岐阜、富山、石川等の採集は止められません。

ともかくギフの採集を通じて多くの人と知り合い、語り合うことが出来ました。そして各地のギフの住む環境の差も少しずつ分かってきました。府県単位や市町村集めとは無縁の虫屋ですが、今後とも他人とチャンバラせずに（チャンバラすると負けるから）やっていきたいと思っています。 よろしく

《なかがわ くにたか 〒658 神戸市東灘区住吉宮町5-9-23》

『翔』100号、おめでとうございます

高 羽 正 治

『翔』100号、おめでとうございます。

1978年11月に第1号がでて、始めは不定期ということだったのですが、段々と定期になってきたようです。この間出版の担当者のご苦勞は、大変なものがあつたことと思います。いまでは蝶の記事は少なくなって、甲虫が幅をきかすようになって、甲虫大好きな私は毎号見るのが楽しく、ちょっと蝶談会の人に悪いような気持ちです。

若い人の多い百万石蝶談会の今後の発展を祈ります。

《たかば しょうじ 〒920 金沢市若松町2丁目163》

1992年の撮影記録から

竹谷 宏二

1992年の撮影記録から、主要な目撃記録と若干の生態的知見を紹介する。

3月14日 門前町深見 アカタテハ、ヒオドシチョウ、キチョウ、各1頭

3月28日 金沢市平栗 ギフチョウ 1♂

地表に落下したツバキの花のオシベ基部に口吻を伸ばし吸汁していた。

4月19日 尾口村鵜ヶ谷 スギタニルリシジミ多数

5月3日 白峰村百合谷林道 スギタニルリシジミ2頭

7月4日 金沢市医王山 ウラクロシジミ 1♂

真珠色に輝く本種の翅表を撮りたいと毎年挑戦していたが、中々チャンスに恵まれなかった。この日は薄曇で風も無く絶好の撮影日和、近くの葉上に止まった♂を息を殺して見ていると、気持ちを通じたのか少しづつゆっくりと翅を開いてくれた。

7月5日 辰口町蟹淵 ウラクロシジミ 1♀、ルリイトトンボ多数

モリアオガエルの卵塊表面に口吻を伸ばしながら、徐々に移動していた。ルリイトトンボは岸辺に多数見られた。

7月5日 辰口町鍋谷林道 ミスジチョウ1頭

8月14日 白峰村白山釈迦林道上部 ベニヒカゲ多数、クモマベニヒカゲ2頭

8月23日 白峰村白山砂防新道(黒ボコ岩付近) ベニヒカゲ多数、クモマベニヒカゲ4頭

8月24日 岐阜県白川村白山平瀬道(大倉尾根) クモマベニヒカゲ6頭

ベニヒカゲは目撃できなかった。

8月30日 白峰村白山砂防新道(甚ノ助ヒュッテ付近) エルタテハ1頭

8月31日 白峰村白山別山道(御舎利山～別山) クモマベニヒカゲ6頭

クジャクチョウ3頭

ベニヒカゲとクモマベニヒカゲは普通混棲するが、8月24日の大倉尾根及び、御舎利山から別山まではクモマベニヒカゲしか見られなかった。クジャクチョウはミヤマリンドウで吸蜜していた。

9月27日 志賀町上野 メスグロヒョウモン 4♀

《たけたに こうじ 〒924 松任市三浦町44-2》

日本鱗翅学会に出席して感じた事

日野正美・美恵子

翔100号おめでとうございます。私のような浅学の者が原稿などおこがましいのですが、最近学会に出席して考えさせられた事があったので恥を承知で書かせて頂きます。たまには本業でない学会に出席してリラックスする（失礼）のも良いものです。この学会は例外なく好きな事ばかりの発表なので退屈しないし、第一参加費が安い。本業の参加費は30,000～50,000円が相場。懇親会費は一流ホテルで15,000～20,000円、大変な違いです。

さて考えさせられた事というのは、自衛隊えびの駐屯地（宮崎県）で発生したオオウラギンの話です。数年前に偶然発見されたこの生息地、翌年にはマニアがドッと押し寄せ、それぞれが100～200頭も採ってしまい、今年はすでに壊滅状態に陥っているという。発表者は「皆さん少し考えて下さい」という言葉で結んでおりましたが、私は前からこうした乱獲とも言える荒らし方に、憤りを感じている一人です。確かに一人で数頭採集するくらいでは個体数に影響しない種類も多いと思いますが、何百人と押し寄せて採りまくったら種類によってはやはり絶滅してしまうと思うのです。一体全体オオウラギンを何百も採ってどうするのでしょうか？ 売るのでしょうか？ 虫を買ったり交換したりして集める楽しみ方については、議論になる処でしょうが、それによって本当に保護すべき種が絶滅に追いやられているとしたら、やはり考えなくてはなりません。採ってよいものとそうでないものとは分けて考えるべきです。虫の事をすこしでも多く知ろうとして研究した者ならそこへんの区別はつくと思います。私たちは虫が好きだし、その虫たちが住む環境はもっと好きな筈です。そして虫たちと自然との関りを研究する事に喜びを感じている筈です。楽しみの対象を自分たち自身で絶滅させてはいけません。近頃ネットを持って出かけるよりも山を歩き回る事のほうが楽しくなってきたのも、そのへんに対するささやかな抵抗かもしれませんね。周りから「蝶なんか殺してかわいそうに」などと言われるたびに、例の生物のピラミッドの説明をしたり、「われわれが採集するくらいでは減りませんよ、むしろ開発によっていなくなっているんですよ」などと弁解していますが、オオウラギンがすごい勢いで採集されている事を思うと、どう説明をしたら良いのか分からなくなってしまいます。生意気な事ばかり書いてしまいました。反論もあると思いますが、お許し下さい。私は今は尾張一宮という処に住んでおりますが、金沢は女房の実家であり、車で20分も走ればもうゼフやオオムラサキのフィールドという金沢が大好きです。内川ダムの奥でカモシカに遭えた事、医王山でアイノミドリの乱舞を見た事。楽しい事ばかりです。いつか、金沢に住む事になるかもしれません。ますますの発展をお祈りしております。これからもよろしく。

《ひの まさみ・みえこ 〒491 一宮市白旗通1-2》

ゴミムシと実体顕微鏡

上 田 昇

私がゴミムシに関心を持ち始めたのは、ここ数年前からである。以前に野中 勝、中西重雄の2氏と共にオサ掘りをしていた頃は、別に注意をしていた訳でもないが、いろいろな場所にて変わった虫がいた時には、とりあえず殺虫管に入れて帰る。こういった事を繰り返しているうちに、ゴミムシに興味を持つようになった。

しかし虫は採って帰れるが、その虫の同定となると厄介千万である。甲虫図鑑を取り出し自分なりに同定するが、ルーペのみでは検索に行き詰まりを感じず。虫はたくさんあっても、同定できない事には何ともし難く、発表もできない。そこで頭に浮かん人物が入場 登氏である。入場氏とも何度か一緒に採集に行っているの、電話をかけて自宅まで来てもらい同定してもら。何度かお願いしているうちに、もう1人ゴミムシのエキスパートがいて、その人は高羽正治氏だと分かった。

思い立ったが吉日と、入場氏に高羽氏宅への訪問についてアポイントをとってもらい、1月17日の午後に入場氏とともに訪れた。高羽氏宅の2階の部屋に上がって、早速実体顕微鏡にてゴミムシを見ると、上翅から前胸背にかけて毛が生えているのがはっきりと見え、細かい部分まで手に取る様に見えた。この瞬間に実体顕微鏡を買う必要に迫られている自分自身に気がついた。

翌日には野中 勝氏に電話をかけ、実体顕微鏡の価格や買値について尋ねると、一台が何と35万円とのこと。さすがにビックリするが、この金額をどのように上さんに説明し、出費させるかが問題である。そうこう考えているうちに上さんが掃除にやってきて、「お父さん、そのゴミムシをどかして！」と、掃除機をひっぱりながら大声で部屋に入ってくる。「ついでにその大きいゴミもどいて！」と言われ、小さい部屋をウロウロしながら、なぜもっとセンスのある名前を付けなかったのかと先人を恨んでいる。いつ話そうか、自分なりにタイミングを見計らっているが、なかなか言えない。でも私にとって、これからゴミムシをやっていくうえで必要なのである。しかし、安くない。でも、ゴミムシを検索するには絶対必要なので、先日思い切って話をし、何とか上さんを説得した次第である。

実体顕微鏡でゴミムシが同定できしだい、順次発表していきたいと思いますので、全国のゴミムシファン、上田ファンの皆様、もうしばらくお待ち下さい。

最後になりましたが、いろいろとお世話になりました入場 登、高羽正治、野中 勝の3氏には深くお礼申し上げます。

《うえだ のぼる 〒920-01 金沢市百坂町イ27-9》

ツマグロヒョウモンの撮影記録

宮 本 伸 一

1992年6月13日、松任市千代野ニュータウン近くの空き地において、ツマグロヒョウモンの雌がシロツメクサの花に飛来していたので写真におさめた。

6月の記録は、石川県内では早い記録であるということであり、参考までに報告する。

1992年6月13日 松任市千代野 1♀目撃 宮本伸一

なお、過去の記録をご教示いただいた松井正人氏に感謝する。

《みやもと しんいち 〒924 松任市千代野南2-4-9》

蝶談会のオーラに揺さぶられっぱなし

高 野 敏 明

山本直樹氏に引きずり込まれるように入会してから5年です。例会に出るのも年に1度位ですから、万年新参といったところでしょう。もっともたまの例会出席も、半年分ドンと送られてくる『翔』も、電話も、自分には欠かせない楽しみになってしまっています。また、蝶談会のオーラは、自分を経て、近所（富山の虫屋）を刺激しているというのは、真実です。

徒歩や自転車通勤途中の広坂の裏通りでゴマダラチョウの幼虫のとまったエノキの枝葉を見つかったり、タマムシの鞘翅を拾ったりして、たまには虫を思い出すというような金沢住まいの時代（1980～83）に、蝶談会の存在を知っていたら自分の虫の趣味も少し違ったものになっていたかもしれません。もっと早くもっと身近に皆さんとお付き合いできたかもしれないと思うと残念です。あのころは数える程しか出かけませんでしから……。幸町のアパートから原付バイクを走らせれば、三小牛や倉ヶ岳はすぐでしたし、医王山へはたったの20分。蚊柱を大きくしたようなゼフの乱舞を呆れて眺めていたのは82年の6月21日の夕刻のこと。残念ながら後にも先にも、虫屋に遭遇したのは一度だけですが、82年の6月7日、小原の梅園の入口で自分と挨拶を交したのはどなたでしょうか？

さて、もっとも最近では、ゲンゴロウ・ショックで蝶談会のオーラに揺さぶられたものですが、次は一体何が出てくるのでしょうか。また、ドキドキさせてください。100号おめでとうございます。パチパチパチ……

《たかの としあき 〒930-01 富山市北代1区660》

創刊 100 号によせて

中 田 泰 介

場所は金沢市内の文化住宅の1室、まだ薄暗い部屋の中を、虫屋でこの屋の主人が1人何かを探している。

主 人 網はどこに入れたかな？ たしか…

(ゴソゴソと動き回る)

主 人 おお、あった、あった！ それと、カメラは… ここに入れてあるので…

(ボンとバックをたたく)

主 人 おっと、フラッシュの電池がなかったな…

(冷蔵庫から電池を取り出す。この方が長持ちするのだ！)

主 人 それでは出発だ！

(三脚をかつぐ)

主 人 そうだ、念のため三角紙を持っていこう。これでいい写真が撮れば一石二鳥だ！

(1人ほほえむ、うす気味悪し)

(出かける前にちょっと子供の顔を見に子供部屋に行く)

主 人 ごめんな、パパ、今日は大切なお仕事(!)なんだ。また今度どこかに連れてってやるからな…

(少しうしろめたい、しかし彼の頭の中には奥さんのことはない…)

主 人 おっ、まずいまずい。待ち合わせの時間に遅れてしまう。遅れると〇〇〇はうるさいからな… タバコなかったかな…

(ゴソゴソとポケットを捜す)

主 人 あったあった。

(中を見る)

主 人 ちえっ、もうないや。まいったなあ。まあいいか急ごう。

(車庫までやってくる。もちろん玄関を出るときは音を立てないようにする)

主 人 あれっ、カギはどうしたかな？

(ポケットを捜し、バックの中もひっかき回すが…)

主 人 あれっ、ないぞ。どこにやったんだろう。まったくもう。

(といつつ、家に戻って玄関の扉を開けると、奥方が立っていた！)

手には車のカギが…)

奥さん 『〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇』

あなたの奥さんはここで何と一言してくれますか。虫屋の皆さん、良い家庭を持ちましょう。私はこれからですが…

《なかつ たいすけ 〒921 金沢市野町5-8-10 泉学寮》

今、エビネに

田 中 秀 夫

「翔」100号おめでとうございます。私の場合、もう随分と長い間幽霊会員で、例会はどのくらい欠席しているか分かりません。それゆえ、投稿の資格も無いのですが、現況報告と言うことでお許し願いたいと思います。

蝶談会に蘭ブームが起こったのは、今から何年前でしょうか。蝶談会の例会だと言うのにエビネ、ウチョウラン、スズムシソウなどの話題に終始し、はては会の重鎮でさえ、その話題に入ってこれないような時期がありました。休日には能登、新潟に車を走らせ、やれ緑弁白舌だ、梅弁だ、黄弁だ、等と騒いでおりました。私も、非常に影響を受けやすいたちですので、九州にキシマエビネやタカネエビネがあったなどと聞くと、いても立ってもいられなくなって、九州の離島探検を計画したりしました。「秋のバーベキューでサルメンエビネが見つかったよ」等と聞くと、早速山を駆け巡り、サルメンだけでなくイシヅチも取って来ました。

すっかり、エビネの虜になった私は、現在300株（鉢）ほどを有し、春の花の咲く時期を楽しみにしています。自慢の花は、①織 姫 ②鳳 凰 ③薩摩紫鳳 等ですが、「君臨」、「飛緑梅」も前者に負けない美しさを持っています。鳳至郡門前町で発見した「濃茶弁黄舌（能登茶茶丸）」は九州の銘品にも引けを取りません。

ということで、エビネの方に来てしまった私ですが、よく考えてみると、その元は蝶談会にあったのです。カンアオイ、ユキワリソウと好きな人がたくさんいました。いい影響を受けたので、蝶談会の方々には本当に感謝しています。

《たなか ひでお 〒920-01 金沢市大場町東145》

 祝 辞

貴会 益々の御隆盛のみぎり慶賀の至りに存じます。

記念すべき100号発刊の金字塔も、会員皆々様の精力的、献身的な御活躍の賜物と感服の極みでございます。

更なる御発展を心より御祈念申し上げます。

小 幡 英 典

虫 屋 の バ リ 島 案 内

井 澤 國 雄

バリ島でせっかく昼寝をしながら書いた原稿「ヴェトナム採集記」を忘れてきたので、埋め合わせに、「バリ島観光案内」書きましょう。

私がインドネシア、バリに居をかまえて既に4年を過ぎました。1年のうち日本に居る期間とバリに居る期間を比べるならば、当然そればバリです。とにかくバリは気候が安定していて、物価が安く、住みやすいし、姉ちゃんは優しいし、インドネシアの蝶は自然に集まってくるし、お金さえあればこんな良い所はありません。全く私向きの国なのです。海岸ではハイレグ姿の外人の姿も見られ、言葉に不安を抱くことも私には苦にはならず、極楽、極楽。一部海岸の風光明媚な光景は、30年以上も前に「南太平洋」というミュージカル映画が一世を風靡しましたが、あの映画の挿入歌「バリハイ」のコーラスをイメージしてもらえばよろしいのです。私以外にも既に、加藤 寿(元会員)さん、澤田 博さん、指田春喜さんがバリ島を訪れており、ネットを振られたと聞きました。多分、このお三方とも、家族サービスを兼ねてのバリ島旅行でしょうか。金沢の窪に住む、私の兄も1度バリ島を訪れ、命の洗濯をしていきました。

バリの私の家は、デンパサール空港から身軽な時ならタクシーを探している間に着いてしまいます。チャンスがあれば一度バリ島へお出かけ下さい。連絡をもらえば案内役を承ります。蝶々を買ってくれる方は特に大歓迎します。連絡は次のとおりです。

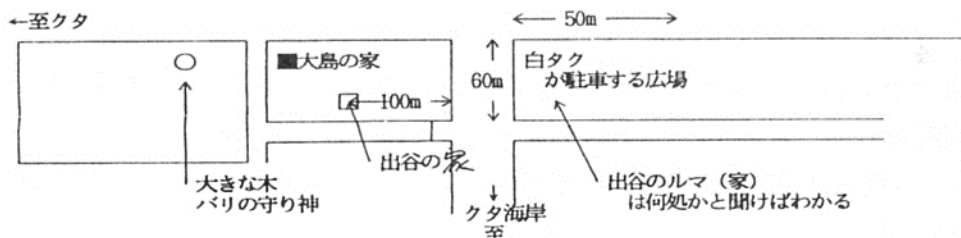
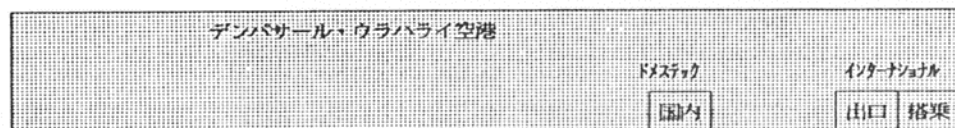
日本に在留中は、木 曜 社：東京都杉並区永福3-53-15 ☎：03-3324-1153

井 澤 宅：金沢市窪4丁目218 ☎：0762-47-0186

嵯峨井宅：金沢市額谷3丁目18-2 ☎：0762-98-3411

バリ島に在留中は、出谷宅☎：バリ 53537 日本語が通じます。

私の名前は、パスポートでは「大島國雄」という名前になっておりますので注意して下さい。



《いざわ くにお バリ島デンパサール空港から徒歩5分》

表紙に見る『翔』の歴史

NO. 1 (1978)



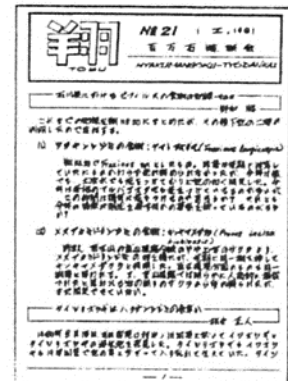
NO. 1~6 編集
松本和馬・野中 勝
吉村久貴・井村正行

NO. 13 (1980)



NO. 7~31 編集：嵯峨井淳郎

NO. 21 (1981)



NO. 31~47 編集：吉村久貴

NO. 68 (1988)



表紙のシリーズ化
(羽化シリーズ)

NO. 82 (1990)



(家紋シリーズ)

NO. 54 (1985)



表紙：松井泰子

NO. 55 (1986)



表紙：松井正人

NO. 61 (1987)



表紙：小幡英典

NO. 50 (1985)



NO. 48~ 編集：松井正人
表紙：野村 明ほか

NO. 88 (1991)



(小紋シリーズ)

NO. 94 (1992)



総目次 (NO. 1~NO. 99)

NO. 1 (1978年)

吉村久貴: 1978年医王山における蝶の標本リスト	1- 1
松井正人: 溪谷の蝶	1- 2
松井正人: 加賀市保賀町7月の蝶	1- 4
松本和馬: イチモンジチョウの食草	1- 4
松本和馬: 山中温泉の蝶	1- 5
松本和馬: 駒桶付近の蝶の記録若干	1- 6

NO. 2 (1978年)

井村正行: フジミドリの採集記	2- 1
松井正人: 犀奥の蝶	2- 2
吉村久貴: 僕とゼフ (その1) ゼフとの出会い	2- 3
吉村久貴: 犀川上流のクロシジミ	2- 4
松井正人: 1974年度中部採集旅行採集蝶一覧	2- 5
松井正人: (クロコムラサキ) 失敗記	2- 7
松本和馬: 白山尾添川付近の昆虫2種	2- 8

NO. 3 (1979年)

野中 勝: 橋場氏の木登り行動 (クロコムラサキ採集記)	3- 1
群研・群誌: ヒサマツミドリシジミ探索記	3- 2
松井正人: 金沢のキマダラヒカゲ	3- 3
井村正行: キリシマミドリシジミの採卵について	3- 3
松井正人: 1974年度中部採集旅行採集蝶一覧 (その2)	3- 4
松本和馬: ウラキンシジミとウラゴマダラシジミの採卵記録	3- 5
松本和馬: オナガシジミの採卵記録	3- 7
井村正行: ヒロオビミドリシジミの採卵	3- 7

NO. 4 (1979年)

窪井 徹: 白山でのコヒオドシの記録について	4- 1
窪井 徹: うわさの <i>Oeneis bakusanensis</i> の目撃例2題	4- 2
蛸嶋井孝郎: ギフチョウの吸水行動について	4- 3
蛸嶋井孝郎: 宝達山と周辺の蝶類について	4- 3
井村正行: 富山県神通川のヒサマツミドリシジミについて	4- 5
吉村久貴: 金沢市近郊にスギタニルシジミ産す	4- 6
群研・群誌: その1・誘引色	4- 6
群研・群誌: 加賀市橋立10月の蝶	4- 7
松井正人: 1974年度中部採集旅行採集蝶一覧 (その3)	4- 8
野中 勝: メスアカミドリシジミ飼育記	4- 9

NO. 5 (1979年)

吉村久貴: 特集<そよかぜの精 Zephyrus>	5
---------------------------	---

NO. 6 (1979年)

蛸嶋井孝郎: 金沢周辺のウラナミアカシジミ	6- 1
松井正人: ネットを張ったギフチョウ	6- 2
吉村久貴: 倉ヶ岳でミスジチョウを採集	6- 2
野中 勝: スキー場に於けるゼフィルス採卵	6- 3
吉村久貴: 中宮のアサマシジミ	6- 5
吉村久貴: クロコムラサキ採集記	6- 5
吉村久貴: Papilio 2種の採集記録	6- 6
蛸嶋井孝郎: 金沢市四坊高坂町におけるオオムラサキの行方	6- 7
蛸嶋井孝郎: ミドリシジミ羽化前の鳴音発生について	6- 7
蛸嶋井孝郎: ミドリシジミ♀の性斑	6- 7
松井正人: 1974年度中部採集旅行採集蝶一覧 (その4)	6- 8
井村正行: 北海道のリンゴシジミとオオイチモンジ	6- 9
井村正行: ミヅウリ、カヌエウリ、クヌエウリの産地確認追加	6- 9

NO. 7 (1979年)

野中 勝: 富山県早月川でアサマシジミを採集	7- 1
吉村久貴: 石川県産メスアカミドリシジミの記録を追加す	7- 1
吉村久貴: 白山駅近道、湯ノ谷の蝶	7- 2
松井正人: 飼育記録	7- 3
蛸嶋井孝郎: 南国、鹿見島にて	7- 6

NO. 8 (1979年)

吉村久貴: 奥能登の蝶	8- 1
野中 勝: クロコムラサキ飼育記	8- 1

野中 勝: ウラキンシジミの県内分布地追加	8- 2
-----------------------	------

松井正人: 1974年度中部採集旅行採集蝶一覧 (その5)	8- 3
-------------------------------	------

蛸嶋井孝郎: ウラナミアカシジミ補遺	8- 4
--------------------	------

金平永二: Self introduction	8- 5
-------------------------	------

NO. 9 (1979年)

松井正人: 7月8月祖母谷の蝶	9- 1
松井正人: 黒蘆谷でカンアオイを見つけた	9- 2
吉村久貴: 蒔広峠のアイノミドリシジミ	9- 3
吉村久貴: タカネヒカゲ目撃記<白馬岳から唐松岳へ>	9- 4
諸道秀人: 連載シリーズ<採集と飼育1>	9- 4
諸道秀人: 連載シリーズ<食草コーナー1>	9- 5
諸道秀人: 9月10日、白山で災難にあった虫達	9- 6
吉村久貴: アサマシジミ採集記追憶	9- 7
金平永二: 採集メモより (その2)	9- 9

NO. 10 (1980年)

諸道秀人: 甲虫屋のマスターすべきプロレスの必殺わざ	10- 1
諸道秀人: 連載シリーズ<採集と飼育2>	10- 2
金平永二: 採集メモより (その3)	10- 3
松井正人: 1974年度中部採集旅行採集蝶一覧 (その6)	10- 4
松井正人: 石川県産 Neptis 2種の記録	10- 7
松井正人: 白山のゴマシジミ	10- 7
諸道秀人: 獅子吼高原採卵記	10- 10

NO. 11 (1980年)

諸道秀人: 金沢市のアゲハチョウ科	11- 1
諸道秀人: Papilio 属の食草	11- 7

NO. 12 (1980年)

蛸嶋井孝郎: 特集<石川・富山・福井の蝶>	12
-----------------------	----

NO. 13 (1980年)

編集 部: 石川県の蝶に関する諸問題	13- 1
蛸嶋井孝郎: 石川県産ウスバシロチョウの記録	13- 4
諸道秀人: 妙高高原採卵記	13- 7
諸道秀人: 昆虫日記	13- 7

NO. 14 (1980年)

諸道秀人: 特集<石川県のタテハチョウ科>	14
-----------------------	----

NO. 15 (1980年)

諸道秀人: 環境保全に対する施工法の選定のための基礎的研究	15- 1
吉村久貴: 石川県最南端のギフチョウ採集データ	15- 6
群研・群誌: ギフチョウの目撃記録集	15- 7
松井正人: 中宮温泉でウスバサイシンを発見	15- 7
吉村久貴: 順尾山林道でギフチョウを採集	15- 7
諸道秀人: 1980・4月の行動記録	15- 8
吉村久貴: 金沢市近郊のスギタニルシジミ	15- 8
ヨシタリサキ: 誘引 (その2)	15- 9

NO. 16 (1980年)

吉村久貴: 鶴来町八幡町のウスバシロチョウ	16- 1
吉村久貴: 板尾谷でアサギマダラを採集	16- 2
野中 勝: 雑録 3 題	16- 2
松井正人: クロシジミ探索記	16- 3
吉村久貴: 医王山山塊のミヤマカラスアゲハ	16- 4
諸道秀人: 蝶の飼育	16- 6
松井正人: 黒蘆谷カミキリ採集記	16- 6
吉村久貴: Zephyrusの活動時間の違いについて	16- 6

NO. 17 (1980年)

松井正人: 白山地方におけるギフチョウの産地	17- 1
吉村久貴: ウスバシロチョウの追加産地2題	17- 2
吉村久貴: 河内村板尾谷採集記	17- 3
松井正人: ホシチャバネセセリは2化	17- 4
吉村久貴: セセリチョウの採集データ2例	17- 4
松井正人: ヘリグロチャバネセセリを採集	17- 5
諸道秀人: 尾添川三ツ又発電所のホシミスジ	17- 5

吉村久貴：白山周辺のホシミスジ	17-6	野中 勝：ボブラよりコムラサキの幼虫を採集	25-6
松井正人：タカネヒカゲ目撃記録	17-6	井沢 國雄：今は昔の物語<武蔵野鳥害>	25-6
NO. 18 (1980年)		野中 勝：ゼフむだ話(2)採卵難鳥度	25-7
松井正人：イワオウギを食すハクサンシジミ	18-1	NO. 26 (1982年)	
諸道秀人：金沢市小原でオオミスジ幼虫を確認	18-1	松井正人：1981年アサマシジミ調査記録	26-1
松田俊郎：大 山 の 蝶	18-2	松井正人：尾張川水系アサマシジミ調査マップ	26-4
吉村久貴：1980年度・医王山の Chrysophyrus 2種	18-2	金子二久：思い出ばなし 其の1<ツルギシジミ>	26-6
松井正人：富山県産ヒメシジミ食草あれこれ	18-3	野中 勝：カトカラ狂い：Part II	26-6
諸道秀人：最近の行動より	18-3	松井正人：白山駅道に於ける燈火採集の記録	26-7
諸道秀人：シロオビアゲハの追捕	18-4	NO. 27 (1982年)	
蛸嶋井孝郎：我家の食草園について	18-4	野中 勝：白山駅道岳でミヤマカラスシジミの卵殻を発見	27-1
吉村久貴：長野県遠征記	18-5	野中 勝：ゼフィルスの新産地	27-1
野中 勝：「カトカラ狂い」	18-7	野中 勝・蛸嶋井孝郎：石川県産オナガシジミの採卵記録例	27-2
ヨシタリサトミ：誘 引 燈	18-8	蛸嶋井孝郎：大日川ダムにてオナガシジミを採卵	27-2
ヨシタリサトミ：ノグソシスト横行す	18-8	松井正人：随ちたオナガシジミ	27-3
NO. 19 (1980年)		松田俊郎：石川県産ウラゴダラシジミ採卵記録例	27-4
蛸嶋井孝郎・野中 勝：オオヒカゲ幼虫探索記	19-1	蛸嶋井孝郎：ウラゴダラシジミの採卵例	27-5
松井正人：能登でオオヒカゲ幼虫を採集	19-3	野中 勝・野中 勝：左礫・伏川・大日川ダム周辺におけるゼフィルス採卵調査	27-5
蛸嶋井孝郎・野中 勝：能登～中能登にかけてのオオヒカゲ調査	19-4	野中 勝：石川県産メアカミドリシジミ追加産地	27-5
松井正人：オオヒカゲ飼育結果	19-7	松井正人：高倉山採卵行	27-6
蛸嶋井孝郎：スゲよりオオヒカゲ幼虫を採集す	19-8	野中 勝：ゼフむだ話(3)ミドリシジミ類の遺伝とハツ当たり	27-7
蛸嶋井孝郎：石川県産オオヒカゲに関する文献一覧	19-8	チノキチサトミ：柳の下にどじょうはいない	27-8
ヨシタリサトミ：能登オオヒカゲ採集記	19-10	チノキチサトミ：ヒサマツミドリ3折採集した人の実談	27-9
NO. 20 (1980年)		NO. 28 (1982年)	
野中 勝：石川県に於けるゼフィルスの食樹の記録	20-1	吉村久貴：門前産クロコムラサキに驚きを感じず	28-1
松井正人：ゼフィルス採卵記録より	20-3	吉村久貴：津幡町大坪地内にてオオヒカゲを目撃す	28-1
野中 勝：再び医王山のメアカミドリシジミについて	20-4	松井正人：知っていますか？<作楽道満常鹿集録>	28-1
吉岡 泉：広島県内のナガサキアゲハ・他	20-5	金子二久：ドロだらけのサドマイマイ	28-2
松井正人：白山小坂平にベニヒカゲがいるのか	20-5	諸道秀人：私の アル バ ム より	28-2
松井正人：ギフチョウ飼育記録例	20-6	吉村久貴：南アルプス山麓でオムラサキの群飛	28-5
諸道秀人：ゼフィルス採卵メモより	20-7	岩下泰子：初めての採卵体験	28-6
NO. 21 (1981年)		岩下泰子：ヒロコのYODAN<ムシヤの夫>	28-6
野中 勝：石川県におけるゼフィルスの食樹の記録(その2)	21-1	蛸嶋井孝郎：採集地案内・1<平湯温泉のオオゴマシジミ>	28-7
松井正人：タイツリオウギはハクサンシジミの食草か	21-1	NO. 29 (1982年)	
松井正人：ハクサンシジミ雌はドクツギが大好き	21-2	蝶 談 会：石川県産ゼフィルス17種の分布について	29-1
松井正人：モンキチョウはイワオウギを食べるか	21-2	岩下泰子：可愛いむすめ(むすこ?)たち	29-4
吉村久貴：白山に於けるアサギマダラの最盛期について	21-2	吉村久貴：医王山山境でのギフチョウ採集例	29-4
野中 勝：白山蛇谷にてスギタニルシジミを採集	21-4	吉村久貴：金沢市駒場のギフチョウ	29-5
松井正人：大多和産ギフチョウ飼育記録	21-4	吉岡 泉：広島県加計町のウスバシロチョウ	29-6
松田俊郎：医王山のメアカミドリ	21-6	諸道秀人：1981年の採卵真より	29-6
NO. 22 (1981年)		諸道秀人：ゼフィルスの採卵	29-7
松井正人：特集<セセリチョウ科>	22	金子二久：標本乾燥法についてチョット	29-8
NO. 23 (1981年)		NO. 30 (1982年)	
天野勝広：特別寄稿<輪島のウスバシロチョウ>	23-1	蛸嶋井孝郎：特集<会員の動き・しゃべの動き>	30
金子二久：三小牛にイエローバンド産す	23-2	NO. 31 (1982年)	
松田俊郎：鳥越城址のオムラサキ	23-2	蛸嶋井孝郎・野中 勝：片貝川南又谷にてアサマシジミを確認	31-1
金平永二：採集メモ<蛇谷のツマジロウラジャノメ>	23-3	野中 勝：随ちたオオミドリ	31-2
松井正人：1981年・雨飾山アサマシジミ	23-3	吉村久貴：群馬県角間山でアサマモンキチョウを確認	31-3
蛸嶋井孝郎：1981年・ギフチョウの採集記録	23-4	岩下泰子：汗まみれ 泥まみれのカンアオイ採集	31-3
蛸嶋井孝郎：1981年5月・ウスバシロチョウ採集例	23-4	竹谷宏二：憧れのフッドレア	31-4
野中 勝：ゼフむだ話(1)涙のフジミドリ卵	23-5	松田俊郎：フジミドリ採集記	31-5
蛸嶋井孝郎：宝達山にてツマグロヒョウモン雌を目撃	23-6	岩下泰子：ウスバシロチョウ採集記	31-7
蛸嶋井孝郎：関野鼻付近・中秋の蝶	23-6	吉村久貴：1981年度採集手記より(その1)松本市近郊にて	31-8
NO. 24 (1981年)		NO. 32 (1982年)	
蝶 談 会：特集<アサマシジミ>	24	蛸嶋井孝郎・野中 勝：能登半島門前におけるウスバシロチョウの採集例	32-1
NO. 25 (1982年)		吉村久貴：金沢市医王山産メアカミドリシジミ雌の赤斑異常例	32-2
蛸嶋井孝郎・野中 勝：邑知湯温泉・南部における村々での分布について	25-1	松井正人：石川県産オオヒカゲの新産地	32-3
松井正人：富山県称名谷の記録若干	25-2	吉村久貴：門前町西円山にてオオヒカゲ幼虫を確認	32-4
金平永二：軟化層翅についてちょっと	25-3	蛸嶋井孝郎：門前町の種蝶若干	32-4
蛸嶋井孝郎・野中 勝：富山・岐阜県境宮川にてヒサマツミドリを採集	25-4	蛸嶋井孝郎：金沢市熊走にて白化異常型ウスバシロチョウを採集	32-5
松田俊郎：ギフチョウの採集記録例	25-5	吉村久貴：1981年度採集手記より(その2)入笠山ヒメギフ採集記	32-5
蛸嶋井孝郎：石川県産オオヒカゲ追加産地	25-5	吉村久貴：1981年度採集手記より(その3)白馬村切久保	32-6

吉村久貴: 1981年度採集手記より(その4)松本市美鈴湖採集記	32-8	野中 勝: 採卵はメスアカより	39-5
NO. 33 (1982年)		吉村久貴: 金沢大学薬学部薬草園のジャコウアゲハ今昔	39-6
松井正人: キバナセセリ幼虫採集法	33-1	吉村久貴: 1982年度採集手記より(その6)初体験Catocala採集行	39-7
吉村久貴: 立山川でワガビより得られたヒメシジミ幼虫の一考案	33-2	蛸嶋井淳郎: 採集地案内・2<松本市のオオゴマシジミ>	39-8
吉村久貴: 長馬平(へいまのいだいら)でアサマシジミを確認	33-3	蛸嶋井淳郎: シリーズ案内&書評 第4回<黒部川と新穂川>	39-9
吉村久貴: 白濁地沢産アサマシジミの斑紋異常例	33-4	NO. 40 (1983年)	
野中 勝: 1982年ゼフィルス採卵の記録	33-6	蛸嶋・調・星: 加賀地方におけるZephyrusの新産地(その1)	40-1
吉村久貴: メスアカミドリシジミ幼虫のクヌギでの飼育例	33-6	調・星・蛸嶋: ヒサマツミドリシジミ採卵における新産地調査報告	40-3
松田俊郎: フジミドリ成虫より採卵例	33-7	中西重雄: 尾口村岩間でメスアカミドリシジミを採集	40-4
蛸嶋井淳郎: 医王山にてツマジロウラジアナメを採集	33-8	吉村久貴: ヒサマツミドリシジミ♀の育成の2系統色について	40-4
吉村久貴: 七尾市徳田でみられたシジミチョウ科2種の記録	33-8	吉岡 泉: ムラサキシジミを日撃	40-6
吉村久貴: 1982年度採集手記より(その1)河内村板尾谷採集記	33-9	岩下泰子: 森本方面のナラガシワについて	40-6
NO. 34 (1982年)		岩下泰子: ヒロコの つ・ぶ・や・き <春>	40-7
野中 勝: 石川県にてアサマキシタバを採集	34-1	蛸嶋井淳郎: 採集地案内・3<金沢市中尾周辺のカタハシジミ>	40-8
蛸嶋・野中: 白山山麓にてナマリキシタバを採集す	34-1	蛸嶋井淳郎: シリーズ案内&書評 第5回<図説世界の昆虫>	40-8
吉村久貴: 高山県におけるツバシの採集記録・日撃記録について	34-2	NO. 41 (1983年)	
吉村久貴: 松本市三城でミヤマシロチョウを再確認	34-2	吉村久貴: 加賀地方におけるZephyrusの新産地(その2)	41-1
松井正人: からぶり 3 題	34-3	蛸嶋・調・星: 津幡町瓜生にてオオミドリシジミ卵を採集	41-2
松井正人: シロウトのゼフ幼虫採集記	34-4	金平永二: スギタニルシジミの怪	41-3
吉村久貴: 燕岳から蜂ヶ岳へ<タカネヒカゲ日撃>	34-6	吉岡 泉: 広島県水鏡にてギフチョウを採集	41-5
吉村久貴: 1982年度採集手記より(その2)小谷村ヒメギフ採集記	34-7	中西重雄: 高山市原山採集記	41-6
吉村久貴: 1982年度採集手記より(その3)門前町蘆山灯台採集記	34-8	松田俊郎: メスアカミドリシジミの採卵記録二題	41-7
NO. 35 (1983年)		蛸嶋井淳郎: 採集地案内・4<高山県東砺波郡平村>	41-8
野中 勝: 金沢市羽水でミヤマカラスシジミを採卵	35-1	蛸嶋井淳郎: シリーズ案内&書評 第6回<アニマ83年3月号>	41-9
吉村久貴: 高山県常願寺川岸のミヤマシジミの第1化の早い記録	35-1	NO. 42 (1983年)	
中西重雄: 医王山にてヒメキダラヒカゲを採集	35-2	蛸嶋・野中: 小松市大日川上流でメスアカミドリシジミ幼を採集	42-1
吉岡 泉: 広島県のウスバシロチョウ Part II	35-3	吉村久貴: 河内村板尾にてウラゴマダラシジミ幼を採集	42-2
吉村久貴: 白山でベニヒカゲの乱舞を日撃	35-4	金子二久: 虫採りはVW (ファウヴェー)に乗って	42-2
吉村久貴: 能登地方における普通種・数種の記録	35-5	岩下泰子: 女 採 集 人	42-4
岩下泰子: ヒロコの YODAN Part II <蝶のネクタイ>	35-5	松田俊郎: 医王山にてフジミドリシジミを採卵	42-6
岩下泰子: 順尾山ハッピー採卵記	35-6	吉村久貴: メスアカミドリシジミの産卵位置	42-6
松井正人: ウラジロガシを求めて小矢部川	35-7	蛸嶋井淳郎: 採集地案内・5<上平村成出白川村小白川のワガビ>	42-8
吉村久貴: シリーズ案内&書評 第1回<信州の昆虫>	35-8	蛸嶋井淳郎: シリーズ案内&書評 第7回<黒部川と新穂川>	42-8
NO. 36 (1983年)		蛸嶋・調・星: P A C H I N K O 狂	42-9
吉村久貴: 白山湯ノ谷・釈迦岳登山道にてアサマシジミ卵を採卵	36-1	NO. 43 (1983年)	
松井正人: 宝達山採卵行	36-2	吉村久貴: アサマシジミ成虫の非常に早い発生記録例	43-1
野中 勝: ゼフ採卵記	36-3	蛸嶋井淳郎: 白峰村におけるゼフィルス採卵記録	43-1
吉岡 泉: 広島県におけるサンヨウアオイの採集	36-5	野中 勝: オオミドリシジミの斑紋異常型	43-2
松井正人: 独り言、ブツブツ	36-6	岩下泰子: 1982年ゼフィルス最盛期の医王山	43-3
吉村久貴: 軽井沢町小淵温泉にてメスアカミドリシジミを採卵	36-6	金子二久: 想い出ばなし その2<失敗つづき>	43-5
吉村久貴: 1982年度採集手記より(その4)黒部川と新穂川	36-7	井沢國雄: THAI チェンマイ チェンダウ にて	43-6
吉村久貴: シリーズ案内&書評 第2回<標準ダンス>	36-9	蛸嶋井淳郎: 採集地案内・6<岐阜県古城郡神岡町>	43-8
NO. 37 (1983年)		蛸嶋井淳郎: シリーズ案内&書評 第8回<AMICA '82 Dec>	43-9
吉村久貴: 岐阜県神岡町土〜津波川でワガビシジミを採卵	37-1	NO. 44 (1984年)	
松井正人: ブナグラ谷廻行記	37-2	吉村久貴: 河内村にてフジミドリシジミを採卵	44-1
松井正人: アサマシジミの産内飼育	37-3	竹谷宏二: 1982年の撮影記録から	44-1
吉村久貴: 長野県産ヒメギフの斑紋変異について	37-3	吉村久貴: 長野県木曽路のゴマシジミ	44-3
蛸嶋・野中: 古い台湾のはなし(その1)	37-5	金子二久: ノ コ メ が あ っ た	44-5
NO. 38 (1983年)		吉村久貴: 津幡町でCatocala 3種を採集	44-5
吉村久貴: 石川県富山県境医王山夕霧峠のワガビシジミ	38-1	吉岡 泉: 釈迦道(白山湯ノ谷)でのベニヒカゲの記録	44-6
松井正人: 大 津 に て	38-2	吉村久貴: 1983年度医王山での Zephyrus 採集記録	44-7
吉村久貴: 1982年度採集手記より(その5)白山湯ノ谷採集記	38-3	松井正人: 最近の楽しい事	44-8
蛸嶋・野中: 古い台湾のはなし(その2)	38-4	吉村久貴: シリーズ案内&書評 第9回<飛べ! 昆虫(講談社)>	44-9
中西重雄: 1982年医王山でのゼフ採集の成果	38-8	NO. 45 (1984年)	
吉岡 泉: シリーズ案内&書評 第3回<広島県のチョウ>	38-9	野中・蛸嶋: 金沢市横谷でミヤマカラスシジミを採卵	45-1
NO. 39 (1983年)		松井正人: ミヤマカラスシジミの記録	45-1
中西重雄: 高山県立山山麓にてアサマシジミを採集	39-1	吉村久貴: 金沢市内におけるホソバセセリの記録	45-2
吉村久貴: ウラジロガシよりアイノミドリシジミを採卵	39-1	吉村久貴: 長野県へヒメギフを追って南北(その1北編 蛸嶋・野中)	45-3
松井正人: オオヒカゲの食草の記録	39-2	吉岡 泉: 広島市内でのサツマシジミの採集例	45-4
中西重雄: 金沢市釣糸にてウラナミアカシジミを採集	39-3	吉村久貴: ウラギンヒョウマンの白斑発達異常型	45-4
岩下泰子: 河内村板尾谷オナガシジミ採卵記	39-4	松井正人: 白いアサマシジミ幼	45-5
吉岡 泉: 石川県河内村にてオオミドリシジミ雌を採集	39-5	中西重雄: 岩間丸石谷ゴマシジミ探索谷底降り	45-6

野中 勝:トラフシジミの食樹二種の記録	45-7	中西朱美:凸凹採集記	50-27
野中 勝:島に襲われたヒオドシチョウ	45-8	小幡英典:記念号 オメデトウゴザイマス	50-29
松井正人:採卵会・雨の中でビールを飲む	45-8	田辺幸雄:蝶を撮る	50-29
松井正人:刈安山採卵行	45-9	松井孝子:ヒロコのYODAN「附50号に寄せて」	50-30
NO.46 (1984年)		松井正人:フ化率を上げる採卵法	50-33
中西重雄:白山牧道フジミドリシジミの乱舞	46-1	野中 勝:ゼフむた話(5) 石川県ゼフ採卵史	50-34
吉村久貴:白峰村市ノ瀬にてアミメキシタバを採集	46-1	中西重雄:リハビテーションと採卵の効用	50-37
松井正人:中の川 1982	46-2	松井正人:ある山行	50-38
吉村久貴:長野県へヒメギフを追って南北(その2 南陽 上野原山)	46-3	金子二久:簡易薄型標本箱製作2案	50-39
吉岡 泉:長野・群馬県境のベニヒカゲ多産地帯	46-4	吉岡 泉:ある「昆虫展」を見て感じたこと	50-40
松井正人:富山県釜谷山8月の蝶	46-5	NO.51 (1985年)	
野中 勝:ヒメオオクワガタ秋季採集例	46-6	山岸善也:白山のゴマシジミ	51-1
野中 勝:寄生バエなんて恐くない	46-7	勝海雅夫:医王山にてムラサキシジミを採集	51-1
松井正人:採卵会・かじかむ手で卵を採る	46-8	松井正人:オオチャイロハナムグリを採集	51-1
松井正人:森本付近の注目すべき樹木	46-9	胡蝶・胡蝶:白峰村大杉谷にてツマジロウラジャノメを確認	51-2
山岸善也:白山スーパー林道でキベリタテハを採集	46-9	吉村久貴:加賀海岸で見られた蝶	51-2
NO.47 (1984年)		中西重雄:フジミドリシジミの真実型を採集	51-3
中西重雄:中宮のスギタニルシジミ	47-1	中西重雄:ナラガシワよりゼフの幼虫を採集	51-3
中西重雄:河北新幹線阿田地区にてオオヒカゲ幼虫を採集	47-1	吉村久貴:白山南竜馬場で見られた蝶	51-4
松井正人:1983年はアサマシジミの大豊作	47-2	野中 勝:ツキワクチタの石川県下の採集例	51-4
吉村久貴:オオゴマシジミ採集行	47-3	野中 勝:石川県でナマリキリガを採集	51-5
野中 勝:オオヒカゲの眼状紋異常型	47-4	松井正人:気になる記録	51-5
胡蝶・胡蝶:採卵・ウラナミカシジミを求めて	47-5	野中 勝:石川県におけるオサムシ3種の記録	51-6
蛸嶋井淳郎:ライトトラップに飛来したオオムラサキ	47-6	中川邦隆:Self introduction	51-6
蛸嶋井淳郎:白山スーパー林道にてウラナミシジミを採集	47-7	蛸嶋井淳郎:大雪の中、フクラスズメを採る	51-7
吉村久貴:金沢市卯辰山でスジボソヤマキチョウを目撃	47-7	野中 勝:新連載オサムシコーナー:予告編	51-7
吉村久貴:薬草園でのアサギマダラの目撃記録	47-7	金子二久:テクニカルコーナー<管笠のすすめ>	51-8
松田俊郎:獅子吼高原にてウラクロシジミを採卵	47-8	蛸嶋井淳郎:シリーズ案内&書評 第10回<冬芽でわかる落葉樹>	51-8
山岸善也:中宮でのバーベQ大会と幼虫採集	47-8	NO.52 (1985年)	
NO.48 (1984年)		蛸嶋井淳郎:誘蛾記 2. 白馬のアズミキシタバ	52-1
松田俊郎:大杉谷にてムモンアカシジミを採集	48-1	松井正人:キマダラセセリのホソバセセリ型幼虫	52-2
松井正人:ムモンアカシジミの記録	48-2	松井正人:ウラナミアカシジミの採卵	52-3
松田俊郎:ムモンアカシジミをクリから採卵	48-3	吉村久貴:1985年度ギフチョウ属調査記録	52-4
松井正人:採集会・ムモンアカシジミを導いて	48-3	松井正人:江沼郡山中町のギフチョウ	52-6
蛸嶋井淳郎:ムモンアカシジミの生態に関する一文献の紹介	48-4	大島國雄:そのうちでできる木曾博物館	52-7
野中 勝:白山丸石谷にてアサマシジミを採集	48-5	中西重雄:治虫に手を染める	52-8
吉村久貴:福光町刀利ダムにてオナガシジミを採集	48-6	NO.53 (1985年)	
吉村久貴:パイオ採集記・黒部峡谷の巻	48-6	松井正人:カラスシジミについて語る	53-1
野中 勝:採卵記録集について	48-9	松田俊郎:ムモンアカシジミを飼育して	53-1
NO.49 (1984年)		金子二久:飼育結果報告	53-3
金平永二:ユキワリツマキチョウ飼育記録(中間報告)	49-1	松井正人:ムモンアカシジミ飼育記録	53-3
松井正人:早春のオオヒカゲ	49-4	野中 勝:ゼフむた話(6) ムモンアカ悲喜こもも	53-4
吉村久貴:The longest day <長野県産新採集記>	49-5	澤田 博:Self introduction	53-7
野中 勝:ゼフむた話(4) 採集禁止	49-6	野中 勝:訂正とおわび	53-8
蛸嶋井淳郎:同姓同名ではなかった	49-9	NO.54 (1985年)	
NO.50 (1985年)		野中 勝:一里野でノコメキシタバを採集	54-1
吉村久貴:百万石蝶談会6年の歩み	50-1	松井正人:オオヒカゲ調査<1984>	54-1
金平永二:ユキワリツマキチョウ飼育記録(最終報告)	50-6	松井正人:初冬のオオヒカゲ	54-3
蛸嶋井淳郎:誘蛾記 1. 有峰湖のフシキシタバ	50-8	松井正人:風変わりオオヒカゲの飼育記録	54-3
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その1)	50-10	野村 明:NMURA AKIRAの初体験 Part 2	54-4
竹谷宏二:1983年の撮影記録から	50-13	松田俊郎:ムモンアカシジミについての疑問	54-5
高平正明:ヒメシジミの異常型を採集	50-14	金子二久:大塔山採集行	54-6
松田俊郎:ムモンアカシジミ・獅子吼高原に産す	50-15	松井正人:有峰湖のカラスシジミ	54-6
野中 勝:ウラケンシジミの1卵塊中の卵数について	50-16	野中 勝:オサムシコーナー2. ノトジマイマイ	54-6
野村 明:NMURA-AKIRAの初体験<初めての採卵・採卵>	50-17	NO.55 (1986年)	
山岸善也:年末スキー採卵	50-18	松井正人:四国・徳島・ベニモンカラス	55-2
松井正人:あわれなミズナラ君その後	50-18	松井正人:ホシミスジ飼育記録	55-3
吉村久貴:GT(グランドツーリング)採集記《白山三ツ谷の巻》	50-19	野中 勝:オサムシコーナー3. 医王山のオオカタビロオサムシ	55-4
大島國雄:図々しい俺	50-21	編集部:1985年石川県昆虫界10大ニュース	55-6
吉村久貴:岩間丸石谷にてヒメオオクワガタを採集	50-22	横山 隆:Self introduction	55-8
勝海雅夫:8月中旬信州開田高原にて	50-22	田中秀夫:Self introduction	55-8
金子二久:思い出ばなし その3<幼虫採集と山行>	50-25		

NO. 56 (1986年)

野中 勝:石川県のスギタニリシジミ	56- 2
中西重雄:ギフチョウ蛹化場所の1例	56- 5
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その2)	56- 6
松井泰子:「またまたほんの余談です・・・」	56-10
山口英夫:Self introduction	56-11
吉田徹也:Self introduction	56-11
松井正人:エゾエノキからオオムラサキを採幼	56-12
編集部:1986年私の抱負一覧表	56-12

NO. 57 (1986年)

松井正人:ムモンアカシジミの新産地を求めて	57- 2
松井正人:ギフチョウ雌の吸水行動	57- 3
松井正人:越冬葉に食い付いたギフチョウ	57- 4
松井正人:ミスジチョウを採幼	57- 4
松井正人:四国・カンアオイ探しとクロコノマ	57- 4
野中 勝:オサムシコーナー4. オサムシ会話	57- 6
野中 勝:金沢市国見山でサビナカボソタマシを採集	57- 7
野中 勝:ゴミシダシジミ2種の記録	57- 8
松井正人:ギフだらけ	57- 8
M. NAKA:セント・ルイスからの第一報	57- 8
山本直樹:Self introduction	57- 9

NO. 58 (1986年)

金子二久:そこには、ただ風の吹いているだけ	58- 2
松井正人:金沢市周辺のフジドリシジミの新産地	58- 5
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その3)	58- 6
松井正人:白峰村でギフチョウの発生地を確認	58- 9
松井正人:オオチャイロハナムグリに手を汚す	58-10

NO. 59 (1986年)

松井正人:ホシチャバネセセリを採幼	59- 2
松井正人:カラスシジミの幼虫色に関する1資料	59- 3
松井正人:クリの花からミヤマカラスシジミを採集	59- 3
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その4)	59- 4
松井正人:オオチャイロハナムグリに手を汚す	59- 7

NO. 60 (1986年)

松井正人:下小屋でカラスシジミを採卵	60- 2
松井正人:ホシチャバネセセリを採幼(その2)	60- 2
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その5)	60- 3
松井泰子:ヒロコの日記から	60- 6
小幡英典:日頃虫を眺めていて思いめぐらす事	60- 6
松井正人:宝達山にてアサギマダラ多数を目撃	60- 9
菊池雅之:Self introduction	60- 9
松井正人:ウラナミアカシジミの蛹に透ける玉の正体は?	60-10
松井正人:白山薬師山でベニヒカゲとゴマシジミを目撃	60-10
井村正行:ヤコンオサムシの一採集例について	60-10

NO. 61 (1987年)

松井正人:1986年アサギマダラの発生地調査	61- 2
吉村久貴:唐松岳から鈴ヶ岳へ(後立山縦走記)	61- 3
井村正行:マヤンコブヤハズを宝達山で記録	61- 5
松井正人:金沢から最も近いゼフィルス24	61- 6
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その6)	61- 7
編集部:1986年石川県昆虫界10大ニュース	61-10

NO. 62 (1987年)

田中秀夫:金沢市におけるオオムラサキの分布	62- 2
金子二久:思い出ばなし:其の四(メッコシタノ)	62- 4
吉村久貴:初めての遠出採集	62- 5
吉村久貴:富山県砺波市におけるクロコムラサキの記録	62- 6
松井正人:白峰村赤谷川のギフチョウ	62- 6
井村正行:石川県におけるソボリンゴカミキリについて	62- 7
松井正人:スッポンタケに引かれたセンチコガネと...	62- 7
編集部:1987年私の抱負	62- 8
多富敏:Self introduction	62- 8

NO. 63 (1987年)

嵯峨井淳郎:特集<石川県のCATOCALA>	63
------------------------	----

NO. 64 (1987年)

松井正人:河内村板尾コツ谷上流域にウスノサイシンを発見	64- 2
山本直樹:奈良県川上村のギフチョウ	64- 3
松井正人:ギフチョウの蛹殻を発見	64- 3
山本直樹:西会津町のギフチョウ	64- 4
松井正人:加賀地方のカンアオイ分布図	64- 4
嵯峨井淳郎:黒部市宮野山運動公園にてギフチョウを目撃	64- 6
松井正人:ギフチョウの産卵順序について	64- 6
金子二久:思い出ばなし:其の五(ギフの思ひ出)	64- 6
松井泰子:まぼろしのギフチョウ	64- 8
松井正人:1987年・暖冬・ギフチョウ初見記録更新作戦	64- 8
高野敏明:Self introduction	64- 9

NO. 65 (1987年)

嵯峨井淳郎:宝達山のウスノシロチョウ	65- 2
嵯峨井淳郎:金沢市北部地域におけるウスノシロチョウ	65- 3
嵯峨井淳郎:押水町宝達山〜山崎地内にて見かけた蝶	65- 3
松井正人:石川県のアサギマダラ	65- 4
井村正行:石川県のカミキリムシ科(その7)	65-10
井村正行:ホソツヤヒゲナガコバネカミキリを採集	65-13
金子二久:白山、念仏尾根のベニヒカゲ採集行	65-14
金子二久:匠王山におけるムラサキシタノの記録	65-14
山本直樹:蛭ヶ野高原のギフチョウ採集法について	65-14

NO. 66 (1987年)

松井正人:白峰村砂御前山でゴマシジミを採集	66- 2
澤田 博:金沢市匠王山でムモンアカシジミを採集	66- 2
澤田 博:匠王山のヒメギマダラヒカゲについて	66- 3
松井正人:白峰村小赤谷でギフチョウを確認	66- 3
松井正人:ススキよりセセリ2種を採集	66- 3
松井正人:メスグロヒウモンを飼育して	66- 4
吉村久貴:学校登山(白山)でのクジャクチョウの目撃記録	66- 5
嵯峨井淳郎:八尾町白木峰にて	66- 7
秋吉幸太郎:立山に産する蝶の諸問題について	66- 8
井村正行:キベリタテノの前蛹と蛹を発見	66- 9
細沼 宏:Self introduction	66- 9

NO. 67 (1987年)

松井正人:アサギマダラの交尾行動を観察	67- 2
山本直樹:白山スーパー林道三方岩休憩所付近の蝶	67- 3
吉村久貴:富山県大和峠におけるムモンアカシジミの採集記録	67- 3
松井正人:宝達山のアサギマダラは移動集団群	67- 4
勝海雅夫:白山周辺のムモンアカシジミの発生について	67- 5
吉村久貴:富山県高爪山における採集記録	67- 6
田中秀夫:金沢市戸室地区でオオムシジ採幼	67- 7
松井正人:匠王山のゴマシジミ	67- 7
野中 勝:「ロッキー I」	67- 8

NO. 68 (1988年)

野中 勝:「ロッキー II」	68- 1
編集部:1987年石川県昆虫界10大ニュース	68- 7
編集部:1987年7月収支報告	68- 9

NO. 69 (1988年)

松井正人:アサギマダラの県内秋発生は可能	69- 1
松井正人:ギフチョウの初見記録	69- 2
松井正人:中国・桂林の蝶	69- 3
嵯峨井淳郎:白峰村砂御前山にて	69- 4
指田春喜:Self introduction	69- 4
中西重雄:アオマイマイカブリの島、栗島へ	69- 5
井村正行:対馬産フタジゴマフカミキリ(キシマゴマフ)	69- 6
松井正人:キマダラヤマカミキリをクリ園にて採集	69- 6
井村正行:白山のクリとカミキリ	69- 7
編集部:アサギマダラ・マーキング一覧(1987)	69- 7
編集部:1988年私の抱負	69- 8

NO. 70 (1988年)

松井 正人: ミスジチョウを採幼	70-1
嵯峨井孝郎: 小赤谷にてギフチョウ成虫を採集	70-2
勝海雅夫: 白峰村のギフチョウ	70-3
松井 正人: 石川県の珍蝶	70-4
松井 正人: ススキを食べていたヒメジノメの記録	70-7
井村 正行: 長野県開田村のヤツボシロカミキリについて	70-7
松井 正人: 医王山ムモンアサギシジミ調査マップ	70-8

NO. 71 (1988年)

指田 春喜: 1988年、医王山、アイノミドリノ乱舞	71-1
松井 正人: 奥能登のウスバシロチョウ	71-4
嵯峨井孝郎: ギフチョウの第4食草を確認	71-5
チャネキチ: ギフチョウ・ラヴ・コール	71-5
小幡英典: オサムシが釣れた	71-7
ヒロコ: SUN SUN 午後	71-7

NO. 72 (1988年)

野中 勝・中西重雄・澤田 博: 特集<石川県のオサムシ採集記録>	72
----------------------------------	----

NO. 73 (1988年)

松井 正人: 1988白山駅近岳、キベリタテハは豊作か	73-1
勝海雅夫: 1988 栗 鞍 に て	73-2
吉岡 泉: 関西 ギフ物語	73-3
指田 春喜: ある日、標本箱を見ながら思うこと	73-5

NO. 74 (1988年)

指田 春喜: 噴泉塔(白山麓・岩間温泉)でヒメジミ6頭を目撃確認	74-1
勝海雅夫: 蛇谷でヒメジミの幼虫を採集	74-1
松井 正人: 赤鬼山でゴマシジミを採集	74-2
野中 勝: 白山市の瀬のシモツケにホシミスジが発生	74-3
勝海雅夫: 新穂高「左保谷のオオゴマシジミ」	74-3
吉岡 泉: タテハモドキ雑記	74-4
野中 勝: カナディアン・ロッキー その1	74-5
頼田・野中: おたけの村、石川県金沢市、富山県西砺波郡に産す	74-7
野中 勝: 富山県西砺波郡ブナ峠付近の甲虫数種の記録	74-8
松井 正人: オニヤンマがにくい	74-8
ヒロコ: SUN SUN 午後	74-9

NO. 75 (1989年)

野中 勝: ムモンアサギシジミの採集	75-1
松井 正人: ギフチョウの初見記録とサクラの開花宣言	75-3
編集 部: アサギマダラ・マーキング一覧(1988)	75-4
野中 勝: やっぱり冬は採卵に限定	75-5
吉岡 泉: ギフチョウの早い記録	75-7
中田 泰介: 蝶談会年間ベスト10決定秘話	75-8
編集 部: 1988年収支報告	75-9

NO. 76 (1989年)

指田 春喜: 金沢市郊外のアゲハチョウ類の終息日について	76-1
松井 正人: 宝達山のアサギマダラ	76-2
勝海雅夫: 1988年 Luehdorfia 採集個体から	76-3
野中 勝: カナディアン・ロッキー その2	76-4
ヒロコ: SUN SUN 午後	76-11
編集 部: 1989年 私の抱負	76-12

NO. 77 (1989年)

野中 勝: スギタニリシジミの浅野川水系からの記録	77-1
松井 正人: 能登のオオムラサキ	77-1
吉村 久貴: 1989年度ギフチョウ確認記録	77-2
野中 勝: ギフチョウ初見記録の追加	77-2
野中 勝: ミズイロオナガシジミをサクラより採卵	77-3
野中 勝: 金沢市近郊のメスアカミドリシジミの記録	77-3
頼田・野中: 熊走でウスバシロチョウを採幼	77-4
松井 正人: 8月の八尾町白木峰にて	77-4
指田 春喜: マレーシア採集旅行覚え書	77-5
松井 正人: こんな道あんな道「林道佐井線」	77-15
松井 正人: アサギマダラのヘアーペンシル	77-15
ヒロコ: SUN SUN 午後	77-16

NO. 78 (1989年)

松井 正人: オヒョウよりシートテハの幼虫を確認	78-1
松井 正人: 奥能登のウスバシロチョウ その2	78-2
松井 正人: 金沢市牧山でジャコウアゲハの発生地を発見	78-3
上田 昇: Self introduction	78-3
日野正美: Self introduction	78-3
野中 勝: カナディアン・ロッキー その3	78-4
ヒロコ: SUN SUN 午後	78-12

NO. 79 (1989年)

指田 春喜: 特集<台湾8月の蝶類採集品リスト>	79
--------------------------	----

NO. 80 (1989年)

野中 勝: プナ科食ゼフィルス数種のサクラによる飼育の試み	80-1
松井 正人: キベリタテハの卵塊を確認	80-5
吉村 久貴: アサギマダラの雌雄型	80-6
松井 正人: 山ゴマノート 1989	80-7
頼田・野中: アサギマダラの飛来遅れる	80-8
頼田・野中: 新連載 ヒドニアコーナー 予告編	80-8

NO. 81 (1989年)

頼田・野中: 富山県に於けるヒメジミの分布調査(その1)	81-1
野中 勝: 富山県福光町ナガトロ峠で7月2日に観察した蝶類	81-3
野中 勝: 富山県福光町ナガトロ峠でヨナバシを採集	81-4
澤田 博: 大門山・赤澤本古山にヒメハナカミキリ属を求めて	81-5
編集 部: アサギマダラ・マーキング一覧(1989)	81-9
松井 正人: こんな道あんな道「林道黒線」	81-9

NO. 82 (1990年)

頼田・野中: 富山県に於けるヒメジミの分布調査(その2)	82-1
頼田・野中: 石川県に於けるヒメジミの分布調査(その1)	82-3
勝海雅夫: 今年も採卵シーズン到来!	82-5
澤田 博: 白山駅近郊道にヒメハナカミキリ属調査記録(1989)	82-6
野中 勝: ペニシタハを金沢市で採集	82-9
藤本文子: Self introduction	82-9
編集 部: 1989年蝶談会10大ニュース	82-10

NO. 83 (1990年)

松井 正人: 食樹を降り蝶化場所を決定するまでのキベリタテハの行動	83-1
指田 春喜: マレーシアの蝶についての報告(II): アゲハ類(その1)	83-3
頼田・野中: 再開オサムシコーナー(1)【おたけの越冬場所】	83-7
松井 正人: 石川県におけるウスバシロチョウの分布	83-9
編集 部: 前田家の財宝捜しレース	83-12

NO. 84 (1990年)

井村 正行: 石川県産のカミキリ2種の記録報告	84-1
上田 昇: アカマダコガネの採集についての報告	84-1
井村 正行: 富山県産のカミキリ2種の記録報告	84-2
野中 勝: スギノアカネトラカミキリの訪花例	84-2
頼田・野中: 富山県に於けるヒメジミの分布調査(その3)	84-3
指田 春喜: マレーシアの蝶についての報告(III): アゲハ類(その2)	84-5
指田 春喜: 求む! 日本産蝶類などの余剰品	84-9

NO. 85 (1990年)

松田 俊郎: フタバアオイを食べるギフチョウ	85-1
松井 正人: シータテハの若齢幼虫を観察	85-1
野中 勝: ゼフィルスの野外に於ける孵化期について	85-3
野中 勝: アオスジアゲハのグッケイジュへの産卵例	85-3
澤田 博: 富山県福光町ナガトロ峠の蝶について	85-4
指田 春喜: Pieris 属(スズメバチ、スズメバチ)の発着例のおぼなし	85-5
編集 部: 財宝捜しレース第1コーナーを回る!	85-7

NO. 86 (1990年)

松井 正人: 金沢市でゴマシジミとアサギマダラを発見	86-1
澤田 博: 石川県白峰村大杉谷林道で採集したカミキリについて	86-2
松井 正人: ツマグロヒョウモンの集まる山	86-3
野中 勝: 白山のハクサンヒメハナカミキリ	86-4
野中 勝: 白峰村百合谷でエサキキンヘリタムシを採集	86-4
上田 昇: ヤマエノゴサクにてウスバシロチョウの幼虫を採集	86-5
野中 勝: 石川県でシロスジシャチホコを採集	86-5

澤田 博: アカハナカミキリの伝説	86-5	江口元章: 能登におけるシータテハの記録	93-2
左合 直: Self introduction	86-6	勝海雅夫: ウラクロシジミの採卵について	93-3
指田春喜: 簡単な展翅標本のシメ抜き法	86-7	松井正人: アサギマダラを26日後に再捕獲	93-4
松井正人: まぼろしの泉丘標本	86-9	竹谷宏二: ゴマシジミの早い目撃記録	93-4
NO. 87 (1990年)		井村正行: 石川県のカミキリムシ科 (その8)	93-5
松井正人: オオカモメシタからアサギマダラを発見	87-1	野中 勝・他: 石川県の注目すべき甲虫数種の記録	93-8
野中 勝: オニベニシタバの習性	87-2	指田春喜: B型のオラン・アスリーは可食虫	93-9
松井正人: ツマグロヒョウモンの集まる山(その2)	87-3	NO. 94 (1992年)	
松井正人: アサギマダラを14日後に再捕獲	87-4	松井正人: 1991年の石川県はコノマチョウが豊作?	94-1
指田春喜: マレーシアの蝶についての報告(IV): シロハナ(その1)	87-5	蛸嶋井淳郎: ミヤマカラスアゲハ種感1	94-3
松井正人: アサギマダラの急降下を目撃	87-9	江口元章: 加賀市にてツマグロキチョウを確認	94-5
松井正人: 島に攻撃されたいらしいアサギマダラ	87-9	井村正行: カミキリムシ3種の採集記録	94-5
NO. 88 (1991年)		勝海雅夫: 真夏の飛騨・信濃路ひとり旅	94-6
松井正人: アサギマダラを8月から9月に飼育	88-1	松井正人: 天空の蝶・アサギマダラ	94-9
野中 勝: 飼育失敗記: その1 《スギタニルシジミ》	88-2	編 集 部: 1991年収支報告	94-9
松井正人: 石川県に於けるゼフィリスの分布	88-3	NO. 95 (1992年)	
井村正行: ゴシキモボトカミキリを採集	88-7	野中 勝: 暖冬と越冬成虫	95-1
澤田 博: 金沢市雁王山でホソシゲケバカミキリを採集	88-7	松井正人: カラスシジミの終齢幼虫を観察	95-1
野中 勝: 続スギノアカネトラカミキリの訪花例	88-7	蛸嶋井淳郎: 1990年トンボ5種	95-2
蛸嶋井淳郎: 奥能登に於けるカミキリ2種の記録	88-8	松井正人: 石川県のタテハチョウ	95-3
野中 勝: これで良いのか, 「1990年石川県虫界ベスト3」	88-9	井村正行: 石川県のカミキリムシ科 (その9)	95-7
NO. 89 (1991年)		NO. 96 (1992年)	
野中 勝: 飼育失敗記: その2 《桜によるゼフィリスの飼育》	89-1	松井正人: ウスイロコノマチョウを飼育して	96-1
松井正人: アサギマダラを3種の食草で飼育	89-3	井村正行: 石川県のカミキリムシ科 (その10)	96-2
松井正人: 茶畑に集まるアサギマダラ	89-4	松井正人: 石川県のタテハチョウ2	96-5
松井正人: 石川県に於けるゼフィリスの分布2	89-5	蛸嶋井淳郎: 河内村板尾でオオオササギを確認	96-9
指田春喜: マレーシアの蝶についての報告(V): シロハナ(その2)	89-11	野中 勝: 羽咋市海津におけるハンミョウの観察	96-9
野中 勝: クロカバヒロオササギの追加記録	89-14	NO. 97 (1992年)	
井村正行: ダイミョウアトキリギコムシの採集記録	89-14	蛸嶋井淳郎: 石川県のゲンゴロウ科調査報告	97-1
井村正行: ルリクワガタの越冬成虫を採集	89-14	蛸嶋井淳郎: コガシラズムシ科の石川県初記録種	97-10
井村正行: ムネアカセンチュウガネを採集	89-15	徳本 洋: 北陸三県ならびに愛知県の別水棲甲虫類記録状況一覧	97-11
澤田 博: 守家 椿・天牛: その1 《ゴマダラカミキリ》	89-15	野中 勝: 採集地案内: 水棲昆虫のメッカ, 金沢市曲子原	97-20
NO. 90 (1991年)		NO. 98 (1992年)	
野中 勝: (イシノガハ)と(イシノガハ)の蛹の体色について	90-1	松井正人: マダヒカシ科とマダヒカシ科の自然交尾を観察	98-1
松井正人: アサギマダラでスジチョウの越冬幼虫を確認	90-2	松井正人: イケマからアサギマダラの卵と幼虫を発見	98-2
松井正人: 石川県に於けるゼフィリスの分布3	90-3	野中 勝・蛸嶋井淳郎: 石川県でキンイロネクイハムシを採集	98-2
勝海雅夫: フジミドリシジミの採卵について	90-7	松井正人: 石川県のタテハチョウ3	98-3
指田春喜: マレーシアの蝶についての報告(VI): 第3回マレーシア採集コース概略	90-8	上田 昇: オオルリオササギの採集記録	98-11
野中 勝: 富山県でオオオササギを採集	90-11	上田 昇: オオイチモンシマゲンゴロウの採集記録	98-12
井村正行: シリグロオケシキスイの記録	90-11	野中 勝: 富山県平井池でカラカネトンボを採集	98-12
松井正人: アサギマダラの涙	90-11	源 五郎: ゲンゴロウの種名に見る「小ささ」を表す接頭語の研究	98-12
NO. 91 (1991年)		吉岡政幸: 自己紹介	98-13
吉村久貴: 奥能登に於ける褐色型コムラサキの記録	91-1	指田商会: お読みいたします	98-13
松井正人: 能登半島に於けるコムラサキの一資料	91-1	NO. 99 (1992年)	
勝海雅夫: 黒部市のギフチョウ《宮野山公園にて》	91-2	松井正人: 石川県のタテハチョウ4	99-1
松井正人: 金沢市でスギタニルシジミを確認	91-2	井村正行: 石川県のカミキリムシ科 (その11)	99-5
松井正人: 石川県に於けるゼフィリスの分布4	91-3	中西重雄: ウラナミアカシジミの目撃記録	99-7
井沢國雄: スベクタビリス採集記	91-9	吉村久貴: 河内村板尾におけるキベリタテハの目撃記録	99-7
野中 勝: 蝶の異常型3題	91-11	松井正人: 内浦町坪根にて見かけた蝶	99-7
NO. 92 (1991年)		野中 勝: 高岡市守山のクロコムラサキ	99-8
澤田 博: 白山駅遊歩道でクジャクチョウを採集	92-1	野中 勝: ヤコンオササギの朽木からの採集例	99-8
竹谷宏二: クジャクチョウの目撃記録	92-1	蛸嶋井淳郎: 庄川中流域の渓流性ゲンゴロウ	99-8
松田俊郎: 辰町鍋谷にてクジャクチョウを目撃	92-2	澤田 博: バリ島の虫簡	99-9
松井正人: 8月の白山七倉山で見かけた蝶	92-3		
井村正行: 石川県でメスアカムラサキを採集	92-3		
勝海雅夫: 立山・弥陀ヶ原にて	92-4		
松井正人: 石川県に於けるゼフィリスの分布5	92-5		
野中 勝: 石川県におけるヤコンオササギ, オオオササギの分布	92-9		
松井正人: アサギマダラの獲い寄せ術でマーキングは大快調	92-12		
ヒロコ: SUN SUN 午後	92-13		
NO. 93 (1991年)			
蛸嶋井淳郎: ウラギンシジミ吸水, 吸汁例	93-1		

博物館を考える公開討論会

県自然史協会の主催で広く県民に呼びかけた、「自然系博物館を考える」公開討論会が十一月二十九日、金沢で行われた。

我々も自然系博物館を切望するところであるが、標本よりも情報や頭脳がそろい、誰でもオープンに利用できるものがないですねえ。

消えたノトジママイマイ！

十二月二十三日野中、中西、松井の三氏は、八十五年の夢を追いかけて、マイマイカブリを求めて能登島に渡った。ところが、かつての繁栄は無く、何処を探してもその姿はほとんど無かった。

金蝶で新年云々

一月二十七日香林坊は金蝶亭で大新年会。会場は名前の通りで、何から何まで蝶の模様、それも嫌味が無くシヤレている。金ピカに塗った標本は頂けなかったが、マツチ箱

は良かった。

会は益々盛況で、海外からの出席もあって総勢は十八名。話も昆虫多岐にわたり、昆虫総目録の発行もそう遠くないように思えてきた。

二次会はカラオケボックスで、GSを歌いまくった。

高羽さんの情報量は、図書館、博物館なみ

一月十七日、三十一日と蝶談会有志は相次いで、高羽宅を訪れた。高羽氏といえれば昨年六月に「石川県産甲虫類初出文献一覧表」を執筆した、県内随一の甲虫屋。部屋はさながら博物館か大学の研究室のようで、文献が棚を埋め尽くし、検索体制もバツチリ。ここの情報量は大変なもので、図書館、博物館なみ。

今年の春はやつぱり早い？

二月六日金沢の最高気温は二十一度。早くも「春一番」が吹き荒れ、春の近さを思わせた。五日、六日と五月上旬並の気温で、「どこかでギフ

チョウが翔んでいたのでは」と考えられないだろうか。

四十五万円のビノキュラ

これからはゴミムシと心組と固く誓った上田氏、奥さんを口説き落して、ビノキュラを購入。カメラは付けられなかったが、カメラも接続できるタイプで、定価が何と四十五万円。ライトが凝っていて、光ケープルの先から白色光が出る。好みの角度でライティングでき、しかも熱くならない優れもの。

例会の記録

十二月十八日城南管工二階にて八時より開催。

最近話題になっている県産昆虫総目録を作るには、いったいどうしたらいいのか、また暮れに家族同伴でバリ島へ行くが、いったいどうしたらいいのか等話を合した。

参加は、指田、下田、中西、徳本、松井、野中、澤田の7人と、今年最後の例会にしては寂しかった。

翔

NO. 100

1993年3月5日発行

百万石蝶談会

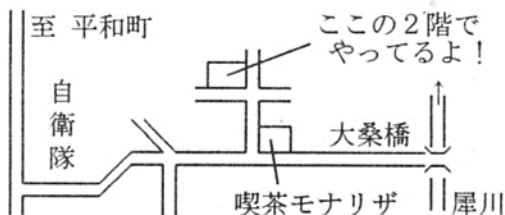
金沢市大場町東871-15 松井方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月の第1金曜日8時から



目 次

嵯峨井淳郎：『翔』発刊100号記念に寄せて	3
井村正行：石川県産のカミキリムシ科について	5
江口元章：ハクサンロウガオサムシ (<i>Leptocarabus arboreus</i> <i>hakusanus</i> (Nakane)) の低い標高での記録	7
松井正人：マダヒヨウモンとオウギンシヒヨウモンの雑種が羽化	8
野中 勝：白山のホシミスジの黒化傾向について	10
徳本 洋：石川県昆虫総目録作成の声をめぐって	11
澤田 博：石川県のカミキリムシ科種群について	18
野中 勝：白峰村釈迦林道で得られた石川県初記録の甲虫3種	23
松田俊郎：1992年トンボ3題	24
山本直樹：ゴマシジミと標高について	25
諸道秀人：百万石蝶談会の思い出	27
下田俊幸：雑感数題	28
井村正行・上田 昇・中西重雄： 本県産カミキリムシ科3種の記録	29
山岸善也：1992年を振り返って	30
中川邦隆：ギフチョウの思い出	32
高羽正治：『翔』100号、おめでとうございます	33
竹谷宏二：1992年の撮影記録から	34
日野正美・美恵子：日本鱗翅学会に出席して感じた事	35
上田 昇：ゴミムシと実体顕微鏡	36
宮本信一：ツマグロヒヨウモンの撮影記録	37
高野敏明：蝶談会のオウラに揺さぶられっぱなし	37
中田泰介：創刊100号によせて	38
田中秀夫：今、エビネに	39
小幡英典：祝 辞	39
井沢國雄：虫屋のバリ島案内	40
編集部：表紙に見る『翔』の歴史	41
編集部：総 目 次	42
編集部：会員の動き・しゃばの動き	49